

(仮称) 松原児童センター基本構想

平成29年3月

草加市

目 次

1	前提条件等の整理	5
(1)	基本的な考え方	5
(2)	基本構想の内容	5
(3)	(仮称)松原児童センターに備える機能	6
(4)	松原団地建替事業の概況	7
(5)	敷地及び周辺条件(施設の規模、整備する設備・配置)	8
2	施設の検討	9
(1)	施設の目的・目標	9
(2)	2つのモデルについて (必要諸室、平面図及び各階構成、施設及び屋外空間のイメージ)	11
(3)	X案・Y案比較表	27
3	市民意向の把握 ~ (仮称)松原児童センター基本構想市民検討会議~	29
(1)	検討会議の概要	29
(2)	検討の経過	30
①	第1回検討会議(平成28年6月23日)	30
②	第2回検討会議(平成28年7月28日)	31
③	第3回検討会議(平成29年1月20日)	32
④	第4回検討会議(平成29年2月21日)	37
⑤	第5回検討会議(平成29年3月21日)	41
4	参考資料	46
(1)	夏休み調査隊について(先進事例の整理)	46
①	夏休み調査隊とは	46
②	ヒアリング結果の整理	51
③	川崎市子ども夢パーク	53
④	港区立麻布子ども中高生プラザ	55
⑤	杉並区立児童青少年センター(ゆう杉並)	56
⑥	春日部市立春日部第2児童センター(グーかすかべ)	57
(2)	(仮称)松原児童センター基本構想市民検討会議出席者一覧	58

1 前提条件等の整理

(1) 基本的な考え方

草加松原団地建替事業の進捗に伴い、昭和48年から40年以上に渡り子ども達に親しまれた草加市立松原児童館は、平成28年3月をもって閉館となりました。

児童館は、0歳から18歳未満の児童が利用する施設として位置付けられていますが、市内には、中学生、高校生や青少年が自由に気兼ねなく利用できる施設は少なく、「青少年を対象とする専用施設の設置」や「自由に音楽活動やダンスなどができる施設の設置」を求める声が多くあります。

草加市では、市民のふるさと意識の創造を目指し、市民の福祉の増進及び文化の向上を図ることを目的として、各地域にコミュニティセンターなどコミュニティ施設13館を開設していますが、(仮称)松原児童センター建設予定地周辺地域については、このコミュニティ施設の空白地域となっており、子どもや青少年だけでなく、地域の大人も含めた幅広い世代の市民が交流することができる施設の設置も必要な地域となっています。

一方、草加市は、平成5年に音楽都市宣言を行い、音楽を通じたまちづくりを進めるとともに、平成26年には、心豊かな市民生活と魅力ある地域社会の実現に寄与することを目的として、草加市文化芸術振興条例を制定し、音楽を含め文化芸術の振興を「豊かさ」の基軸の一つに置き、まちづくりを進めており、その拠点となる施設の整備も必要となっています。

今から55年前、昭和37年、当時「東洋一のマンモス団地」とも言われた草加松原団地も、現在は建替えが進み、今、まちが大きく生まれ変わろうとしています。

(仮称)松原児童センターは、子どもにやさしいまちづくりの推進と地域の多世代に渡るコミュニティの醸成を目的として設置します。

子どもから青少年、そして大人まで多くの市民が、憩い、遊び、集うことができる施設として、さらに音楽都市として、「綾瀬のほとりにメロディー流れ 草加のまちなかにリズムあふれる 人々の心にハーモニー生まれ よろこびとやすらぎが満ちる 新しい味わいと共感の息づく我がまち」が体現できる施設として、新たなまちにふさわしい施設を目指します。

(2) 基本構想の内容

この基本構想では、関連する計画及びこれまでの市民要望を踏まえ、(仮称)松原児童センターに備える機能、敷地及び周辺条件を整理するとともに、子どもや周辺地域の市民等の意向を把握しながら、施設の目的・目標並びに必要な諸室、各階構成及び屋外空間のイメージについて、検討します。

(3) (仮称)松原児童センターに備える機能

(仮称)松原児童センターは、草加市地域経営指針や第四次草加市総合振興計画第一基本計画など関連する計画及びこれまで寄せられている市民や団体からの要望を踏まえ、次の3つの機能を有する施設とします。

児童館の機能＋青少年活動の拠点機能

乳幼児から18歳未満までを対象とする児童館にとどまらず、青少年の活動の場となるよう必要な設備を整備します。

世代間交流を通じた次世代の育成

児童、青少年の利用に支障がない範囲で、一般市民の利用にも供することで世代間交流を推進します。

草加市文化芸術振興条例に基づく心豊かな市民生活と魅力ある地域社会の実現

音楽活動の発表も行える施設、設備を整備します。

■背景にある計画と考え方

- ・「草加市地域経営指針Ver.2」 第3章 「地域の豊かさ」を創出するために
ーコミュニティ力こそ「まちの力」
- ・「第四次草加市総合振興計画第一期基本計画」 重点テーマ
ーコミュニティ力の向上
- ・「公共施設配置計画」(2011-2015) 第4章 施設別の現状と課題
ーコミュニティの空白地域の解消
- ・「草加市公共施設マネジメント白書2014」 4 今後の方向性
ー他施設(機能)との複合化
- ・「草加市公共施設等総合管理計画」 基本方針
ー1 施設・多機能
- ・「第二次草加市次世代育成支援行動計画(前期計画)」 基本施策分類1 「子育て」「子ども」を支援する
ー地域に根ざした新しい児童館・児童センター ー青少年の活動支援の推進

■市民、団体からの要望

- ・草加未来人サポート審議会・同審議会青少年部会 「意見具申書」(平成22年3月)
ー青少年を対象にした専用施設の設置
ー自由に音楽活動やダンスなどができる完全防音、必要な備品を備えた多目的室の設置
- ・草加の児童館を考える会 「放課後の児童の居場所について、特に中高生について考慮されるべき点についての要望書」(平成28年1月)
ー中高年生をも対象にした機能を持つ大型児童センターの設置
- ・草加市演奏家協会 「未来を担う子供たちのための音楽環境の充実を求める陳情書」(平成28年2月)
ー草加市の音楽の中心拠点となる音楽施設の設置

(4) 松原団地建替事業の概況

(仮称)松原児童センター 開設場所

- ・事業名：【松原団地駅西側地域まちづくり推進事業】約54ha
- ・事業期間：平成15年度～
- ・UR都市機構及び民間開発により地区内で約6,000戸の住宅を建設する計画です。
- ・B、C、D街区の計画未定箇所は、マンション等の集合住宅や戸建て住宅、商業施設、公共施設、大学関連施設などを誘導する計画です。

[松原団地建替事業の概況]

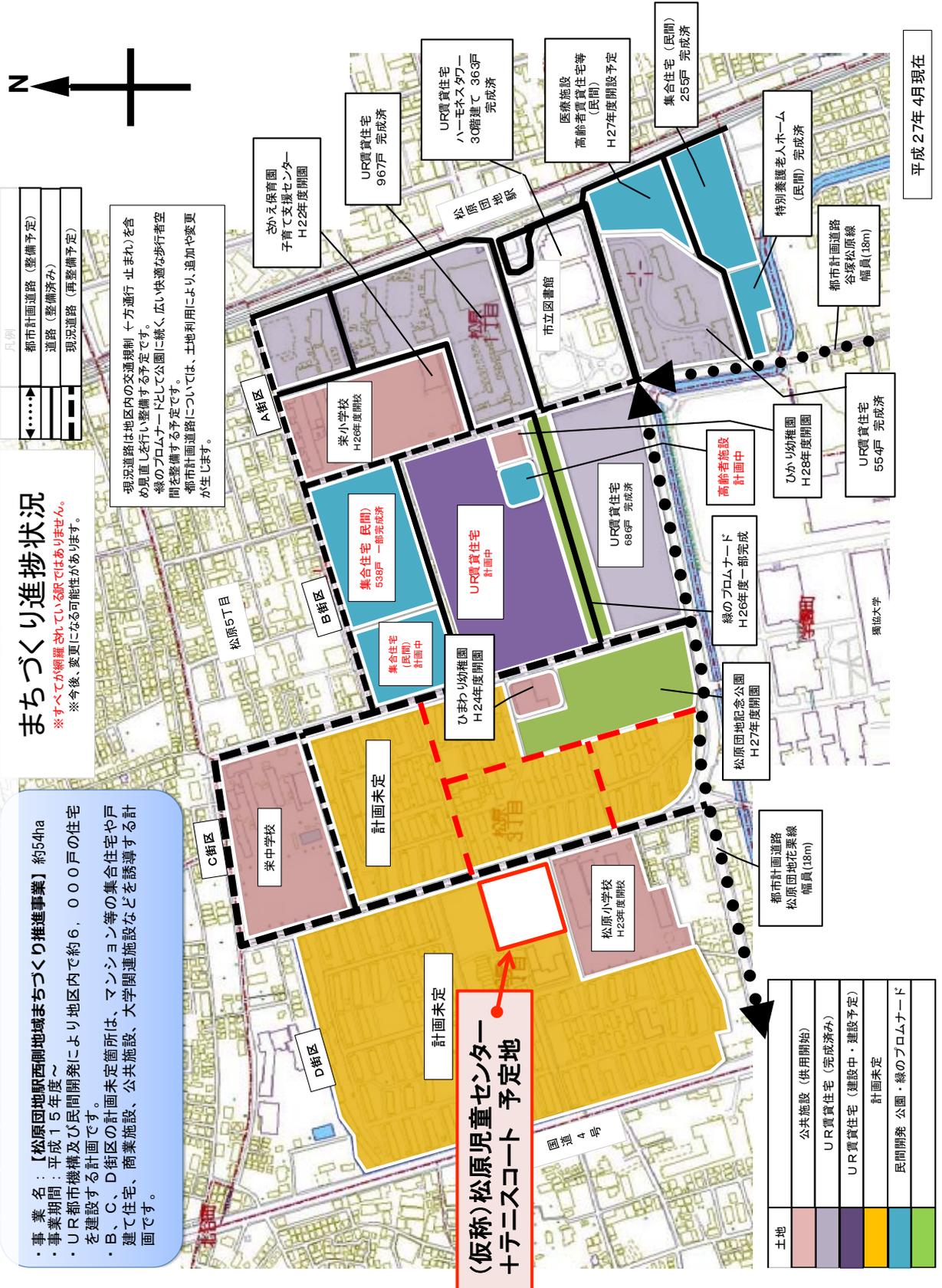
まちづくり進捗状況

※すべてが網羅されている訳ではありません。
※今後、変更になる可能性があります。

凡例

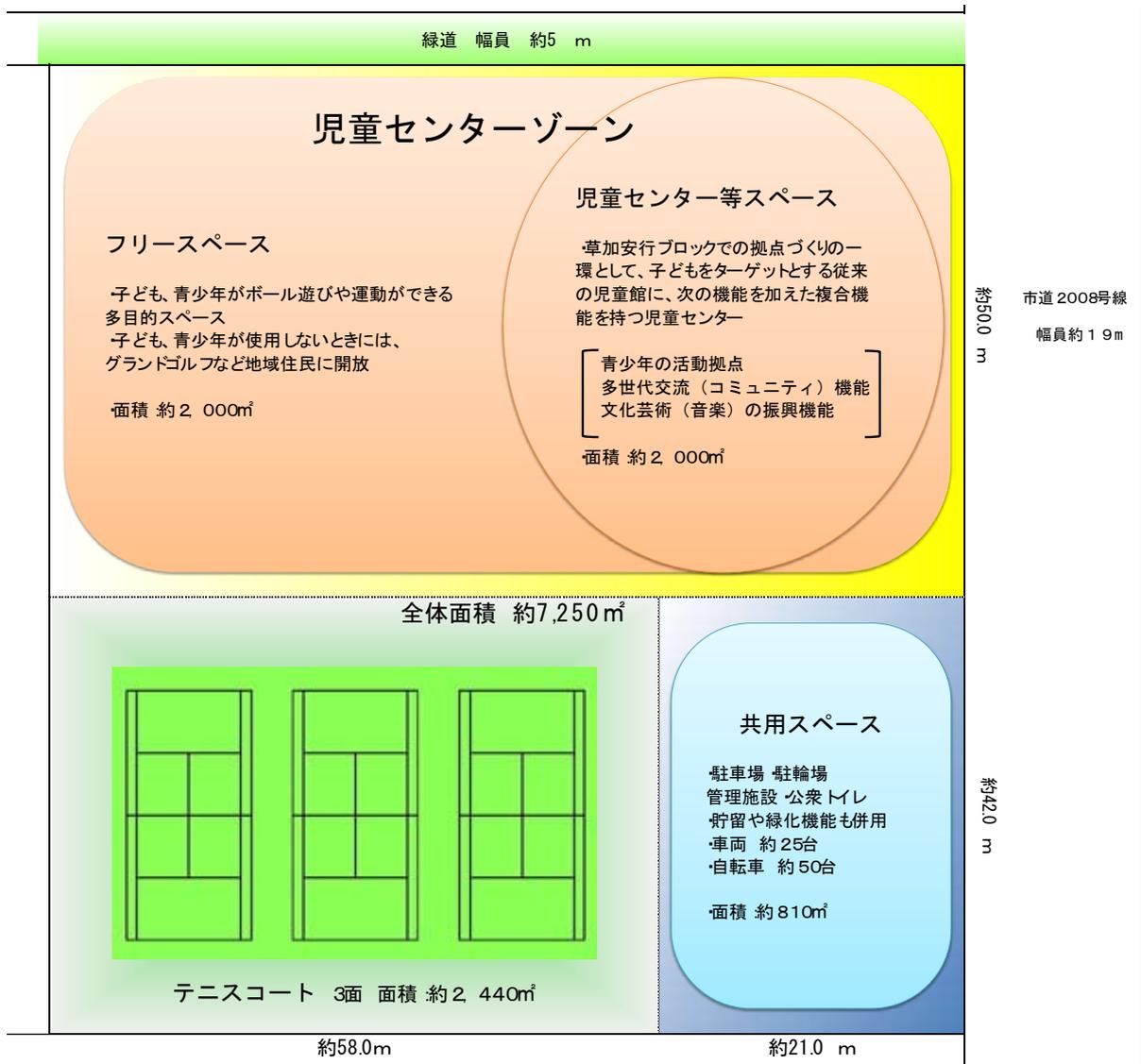
←●●●●→	都市計画道路(整備予定)
——	道路(整備済み)
——	現況道路(再整備予定)

現況道路は地区内の交通規制(一方通行止まれ)を含め見直しを行い整備する予定です。
緑のプロムナードとして公園に続く、広い快適な歩行者空間を整備する予定です。
都市計画道路については、土地利用により、追加や変更が生じます。



(5) 敷地及び周辺条件(施設の規模、整備する設備・配置)

■ (仮称) 松原児童センター開設場所のゾーニングについて



■ 検討スケジュール

平成28年度			平成29年度				平成30年度				平成31年度				平成32年度				平成33年度
4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4月-			
Step.1 基本構想 基本構想の検討			Step.2 基本計画 具体的な施設内容の検討				Step.3 設計 基本設計・実施設計の実施				Step.4 建設工事 契約手続 建設工事の実施				Step.5 指定管理 ● 条例改正 募集・選定 ★ 指定管理者の指定				■ H33.4.1 施設 オープン

2 施設の検討

(1) 施設の目的・目標

■施設のコンセプト

「松原っ子タウン・プロジェクト」

■「松原っ子タウン・プロジェクト」に込めた思い

計画地の周辺では、現在まちづくりが進行中です。将来は、まちのあちこちで子どもたちの声がこだまする、そんな元気で、はつらつとしたまちになってほしいと思います。

その動きのなかで、(仮称)松原児童センターは、まちの核になる建物と考えます。この建物から、子どもたちがのびのびと成長していくための、さまざまな活動が生まれ、それらが周囲に広がって、やがてまち全体が活力に満ちていく。そんな理想を掲げて、今回の場所づくりを「松原っ子タウン・プロジェクト」と名付けました。

このプロジェクトは、建物がオープンして終わりではありません。完成した建物の運営や、ここを拠点に行われるさまざまな活動へと継続していくものです。そして、そこには、地域の大人たちの支えが欠かせないのです。この場所から、子どもたちを中心に、地域のさまざまな人が関わって、たくさんの「物語」が生まれていくといいと思います。

■大切にしたい考え方

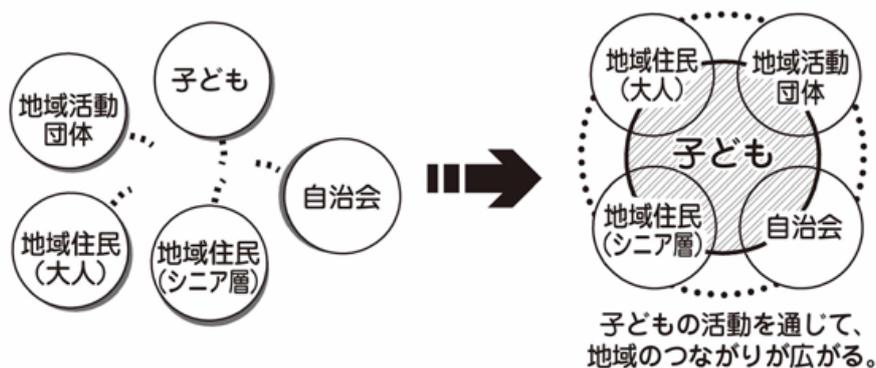
○子どものために

- ・草加に暮らす、すべての子どもが、そのらしく生きていくことを応援します
- ・子どもが自分で考えて選択し、挑戦や失敗をしながら、学んでいく環境をつくります
- ・子どもが、子ども同士や大人と出会う機会をつくり、自分の可能性や他人への思いやりに気づき、自立していく道のを支えます

○かつて、子どもだった、「大人のために」

- ・地域の子どもの成長にふれ、大人が、子どもから教わる機会をつくります
- ・子どもの活動を見守る過程を通して、大人と子どもだけでなく、大人同士もつなぎ、多世代の交流を促します
- ・草加のまちに夢を発信して、草加に暮らす、みんなに元気を届けます

■「松原っ子タウン・プロジェクト」のイメージ



■「松原っ子タウン・プロジェクト…物語」

このプロジェクトの主演は、草加に暮らすこどもたち
0歳から18歳までの、子どものための場所づくりのプロジェクト

その場所は、どんな場所？

家みたいに楽だけど、誰かの家じゃない
来ても、来なくてもいいし、
何もしなくてもいい
ここは、子どもがその子でいられる場所

子どもにとって、遊びは学び
何にでも熱中し、いつのまにか、学んで育っていく
ここは、思い切り遊ぶことができる場所

だからと言って、
何でも許されているわけじゃない
やっていいことと、やってはいけないことを見極める
ここは、子どもが自分で考えて決める場所

まちでいろんな人に会うように、
ここでもいろんな人と出会える
思い通りにならなくて、ケンカして、傷つけあったりするけれど、
相手を思いやる気持ちに気づいていく
ここは、子どもが人間力を身につける場所

子どもにだって、誰にも会いたくない時はある
学校にも、家にもいたくない、
そんな時にいられるところがあつたらいい
ここは、学校と家庭の間にあるような、宿り木のような場所

これまで、草加には、中高生のための場所が少なかった
誰とでも対等に向き合って、
自分なりのこたえを出していく
ここは、中高生が、自分を試すチャンスのある場所

毎日、子どもとだけ過ごしていると、
気持ちがふさいでしまう時もある
まわりの大人が元気にしていないと、
子どもに気をつかわせてしまう
ここは、子育て中のお母さんやお父さんが
仲間をみつけられる場所

大人には大人の理屈があるように、
子どもにも、理屈はある
子どもの力を信じよう
大人は少しの間、待つことにして、子どもの話をきこう
ここは、大人が子どもから教えられる場所

こんな場所を、地域のみんなでつくること
それが、松原っ子タウン・プロジェクト

草加に暮らす、子どものための場所づくり
プロジェクトは今、はじまったばかり

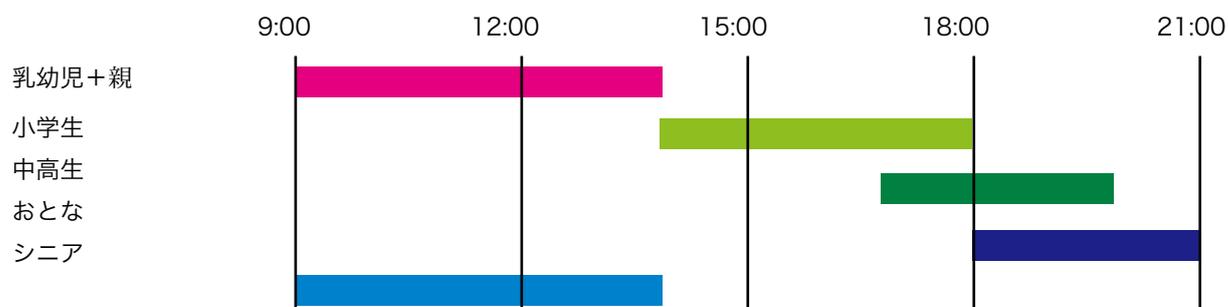
(2) 2つのモデルについて（必要諸室、平面図及び各階構成、施設及び屋外空間のイメージ）

■必要諸室の種類と大きさ、利用対象

凡例：○…利用できる ◎…特に優先して利用できる

項目	面積		利用対象のイメージ					モデル	
			乳幼児+親	小学生	中高生	大人	シニア	X案	Y案
合計…970～1,120 m ²									
屋内	アリーナ (更衣室・シャワー室含む)	350 ～500 m ²	○	○	○	○	○	○	○
	フリースペース	120 m ²	○	○	○	○	○	○	○
	乳幼児室	100 m ²	◎	○	○	○	○	○	○
	コミュニティルーム1 (午後～学童クラブ)	65 m ²	○	◎	○	○	○	○	○
	コミュニティルーム2 (調理設備あり)	40 m ²	○	○	○	○	○	○	○
	コミュニティルーム3 (工作室機能あり)	40 m ²	○	○	○	○	○	○	○
	コミュニティルーム4 (図書室機能あり)	40 m ²	○	○	○	○	○	○	○
	コミュニティルーム5 (中高生室機能を兼ねる)	30 m ²	○	○	◎	○	○	○	○
	音楽室1 (楽器)	25 m ²	○	○	○	○	○	○	○
	音楽室2 (ダンス)	35 m ²	○	○	○	○	○	○	○
	楽器練習室1	10 m ²	○	○	○	○	○	○	-
	楽器練習室2	10 m ²	○	○	○	○	○	○	-
	事務室	25 m ²	-	-	-	-	-	○	○
	WC1 (屋内)	25 m ²	-	-	-	-	-	○	○
	WC2 (屋外兼用)	20 m ²	-	-	-	-	-	○	○
	倉庫	35 m ²	-	-	-	-	-	○	○
	屋外	多目的広場		-	-	-	-	-	○
プレーパーク、リーダーハウス			-	-	-	-	-	○	○
大きな木のある緑道			-	-	-	-	-	○	○
駐輪場 (自転車100台)			-	-	-	-	-	○	○
管理用駐車場 (2台程度)			-	-	-	-	-	○	○
水場、井戸			-	-	-	-	-	○	○

■施設の利用実態予想イメージ



※このイメージ図は、各世代の主な利用時間帯を想定するもので、時間帯で利用者を区分するものではありません。

■計画を考える際に考慮すべき点（先進事例調査、周辺施設ヒアリングより）

○全体について

1. 時間による住み分けを検討する
 - ・乳幼児親子は最近では午後でも外出する
2. 乳幼児はいくつかの選択肢が考えられる
 - ・みんなと一緒によい
 - ・すぐ隣に小中学生がいても大丈夫
 - ・別室が安心できる

○アリーナ・体育室（更衣室・シャワー含む）

1. 既存の文化施設
 - ・1200席、350席はあるが、老朽化が進んでいる
 - ・10年後には建替えるかどうか・・・分からない
2. 可動ステージを設置するか否か
 - ・ジュニアオーケストラは、練習？発表？
 - ・オーケストラの練習が始まると、他のスポーツは実質的に使えなくなる
 - ⇒“いつ行っても遊べる施設”じゃなくなるのは困る
 - ⇒音楽室（2部屋を一続きの空間）で練習できないか？

○フリースペース・休憩スペース

1. 畳スペースの有無
2. 飲食可？
 - ・いつでもOK⇒ゴミが散らかる⇒入れたくなるゴミ箱をデザインする
 - ・時間を決める
 - ・食べたいのに食べられない子どもがいたら？？

○乳幼児+親のための部屋

1. 児童センターが完成すると、「ろけっと」が移設される予定
2. 専用の場所は不要ではないか
 - ・既存施設でカバーする
 - ・優先順位は低い

○学童クラブ

1. 将来、必要性が弱まり、他の用途に変更する場合を想定しながらプランを考える
2. 時間帯
 - ・麻布では、夕方から利用していた（？）

○調理室・カフェ

1. オープンカフェがよい
 - ・付属スペースとして検討する
 - ・独立した部屋を用意するのか
2. 予約なしで使いたい

○集会室・工作室

1. 多目的に使えるとよい
 - ・ヘビーデューティーや大テーブルでミーティングも人気がありそう

2. オープンなコーナーでできることもあるのではないかな

- ・音や埃の問題もある

3. 人とセットで考える

- ・指導者がいることが前提・・・ただスペースをつくれればよいというものではない

○図書室・学習室

1. 「読み聞かせ」は図書室じゃなくてもできる

2. 雑誌・マンガ／受験参考書など、図書館では見ることのできない本を揃えたい

⇒静かに本を読みたい人は図書館に行く？

○中高生室

1. 時間帯

- ・日中は使わない

2. 特別な部屋をつくるかどうか

- ・参加した大学生は不要、という意見だった・・・不良の温床になる？

- ・ゆう杉並では“運営に関わる中高生”という目的が明確だった

⇒それなら必要かもしれない

- ・大きな部屋のコーナーでも十分ではないかな

○音楽室

1. 合体できるとよい

- ・ジュニアオーケストラの練習に使える広さがあるとよい

- ・分割した際の可動壁の防音機能を高める必要あり

2. 屋外コンサート対応だとよい

- ・アリーナではなく、音楽室が外に面する、というのも面白い

- ・音楽都市草加としては、こだわりたい

○屋外（屋上）

1. グランドゴルフは、屋上ではどうか

- ・他とバッティングしにくい

- ・隔離することにならないように配慮が必要

2. フットサルコート

- ・ネットで囲う

3. ジャブジャブ池

- ・池の底にガラスブロックがはまっていて、下の階の天井になっているときれい

- ・井戸水の利用を検討する

- ・屋上に設置する理由は？

4. 時間帯で使い分ける

- ・午後は小中学生

■計画を考える際に考慮すべき論点の整理（第4回市民検討会議より）

○建物の配置

- ・敷地の東側に寄せるか、西側に寄せるか
→屋外を広くとることを考えると、真ん中に配置することはしない

○屋外空間

- ・屋外はできるだけ広くとり、山、水、井戸、森をつくる
→平らな面積を1,800㎡はとることは難しい

○建物の高さ

- 建物全体ボリューム：周辺への影響を考慮すると、アリーナ2階案（高さ20m程度）は難しい

○出入口

- ・どこからでも入れるようにするか、主要な出入口を決めるか
・敷地境界の柵の設置や、管理の考え方と合わせた検討が必要

○学習室・工作室・音楽室・調理室

- ・一体化し、多機能をもつ部屋をつくるか、個別につくるか

○乳幼児と親の部屋

- ・フリースペースと一体化させるか、離れてつくるか

○学童クラブ室

- ・入口を別につくるか、行き来ができるようにつくるか、単独でつくるか
・将来、学童クラブ室が必要でなくなった時の使い方を考慮しておく

○子どものかかわり（可変性）

- ・たとえば、完成後に子どもが自分たちで考えてつくることのできる部分をどのように考えておくか

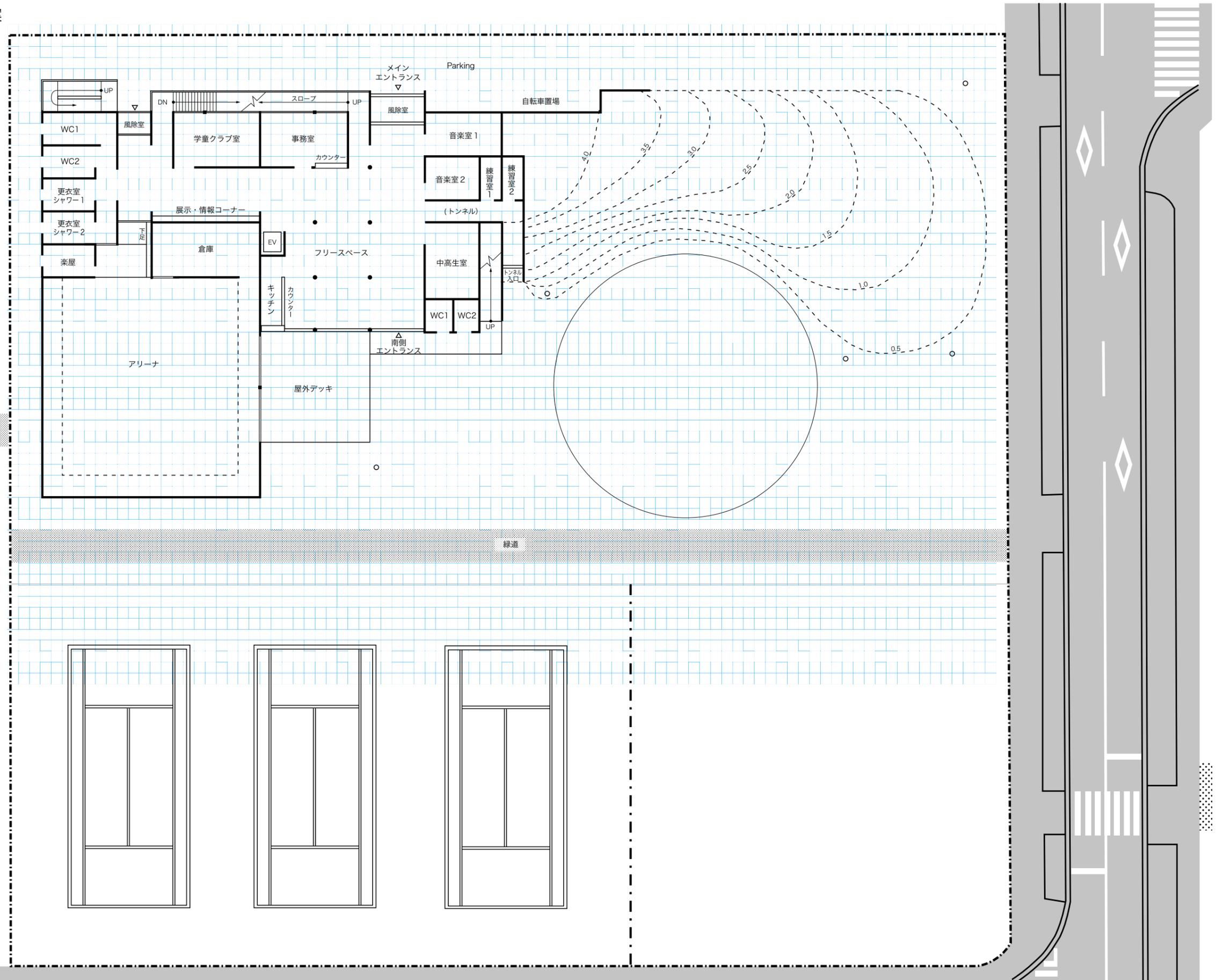
■2つのモデルの位置付け

この基本構想では、先進事例調査、その他子どもや大人のアンケートを踏まえ、必要な諸室を検討し、（仮称）松原児童センター基本構想市民検討会議での検討を行い、さまざまな意見の結果を可視化するために、デザインスタディとして2つのモデル（X案・Y案）を作成しています。

それぞれ意見を取り入れた特徴を持つモデルとしていますが、今後は、このX案、Y案のどちらかを選択するのではなく、次のステップ（基本計画）において、さらに市民意見を集約しながら、コンセプトを実現するために最適な施設の検討を行います。

■ 2つの基本構想案：X案

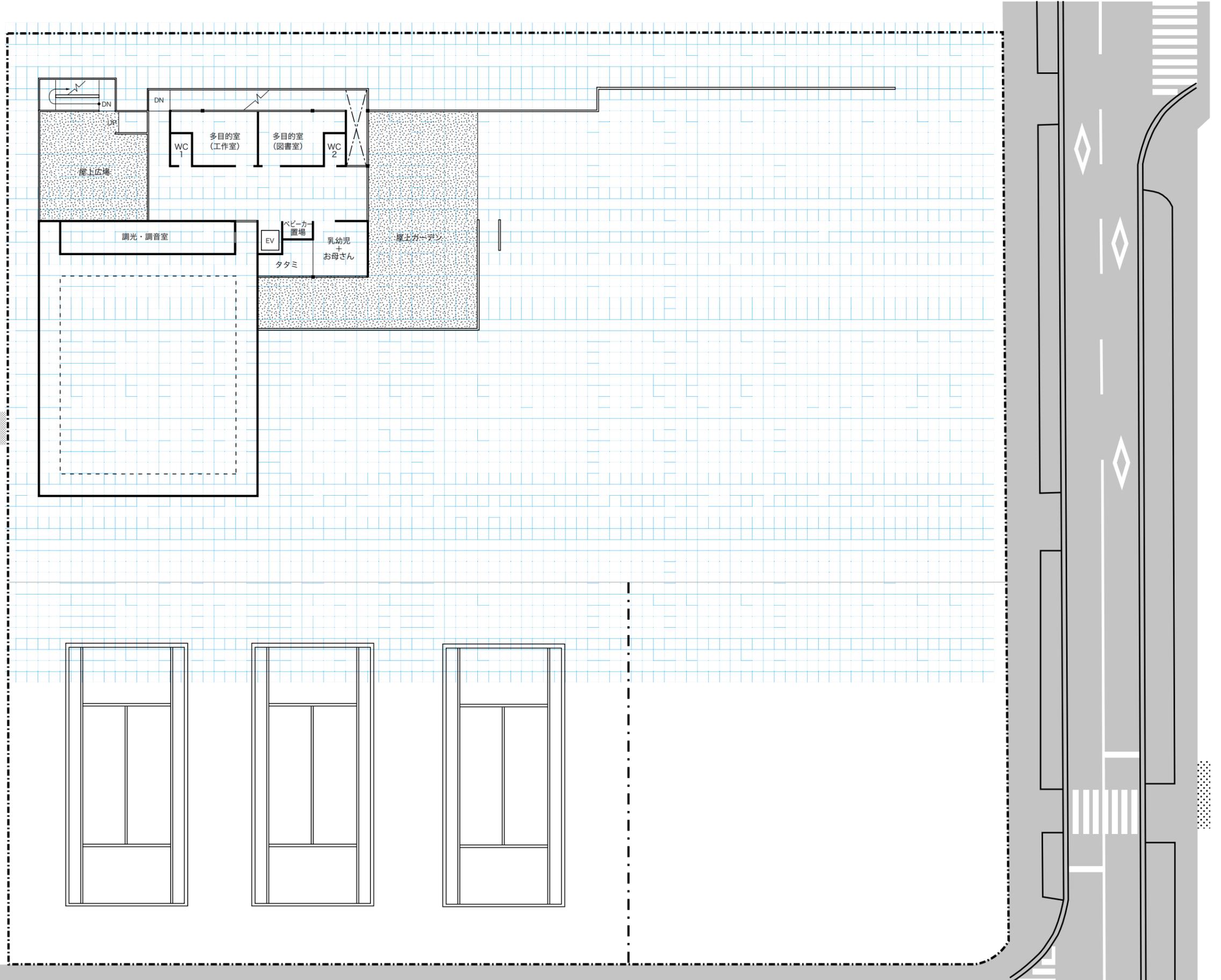
X案1階平面図



草加 藤幼稚園

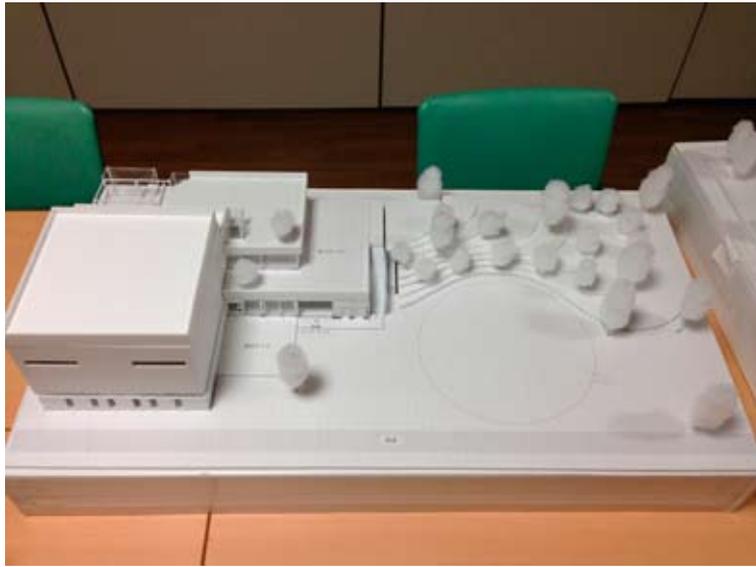
■ 2つの基本構想案：X案

X案2階平面図



草加 藤幼稚園

■ X 案施設及び屋外空間のイメージ



■ X 案の概要について

1. 敷地全体の利用イメージ

- ・ 団地全体が平らな街なので、緑の小山と建物が一体になった特徴的な形態で少し象徴的な子どもの施設をつくる。
- ・ 山の頂上は、建物1階の屋上と同じレベルで、2階諸室の入口となる。
- ・ 2階屋上にも、緑化を施す。
- ・ 主要なアクセスである駅方向から来た際に、まず緑の小山が目に入り、東側道路からも南側緑道からもスムーズに建物に誘導する。(もちろんフェンス等は設けず、建物入口で施錠する。)
- ・ 敷地北側と西側には幅員3mの歩行者用通路を設け、敷地四周をジョギング等ができるようにする。
- ・ 建物は敷地西側に配置するが、将来できる戸建住宅に対する圧迫感がないように、配置や高さ等に十分配慮する。

2. 屋外空間について

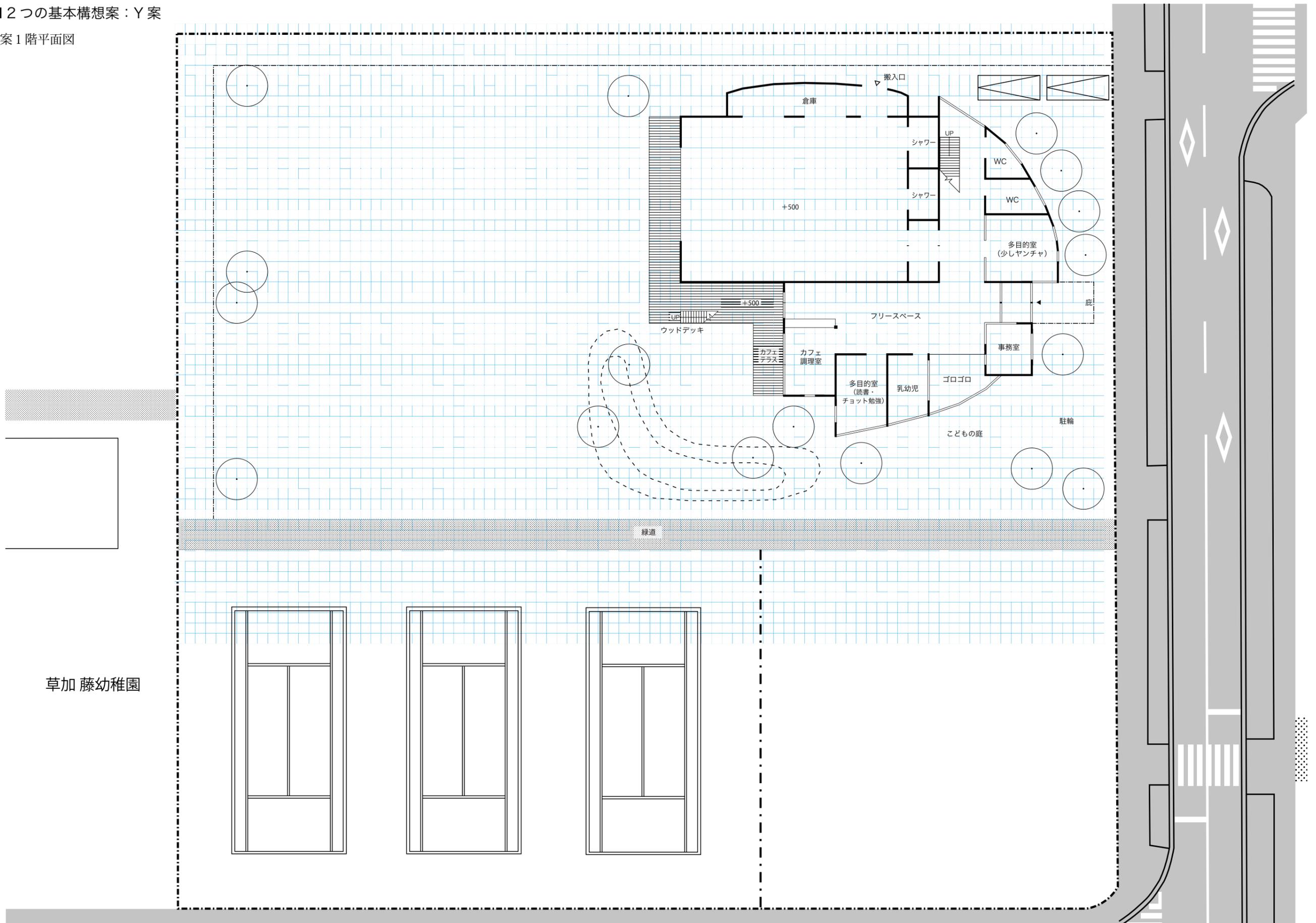
- ・ 緑の小山は、東斜面と南斜面のため日当たりや周辺への見晴らしが良く、こども達の様々な遊びの可能性を提供する。
- ・ 山の頂上には、建物脇の緩やかな階段で上って行くことができる。
- ・ 階段の登り口脇には、屋外トイレを設置する。
- ・ また、山にはトンネルがあり、楽器練習室に行くことができる。
- ・ 中央にはさまざまなイベントが開催できる円形広場(半径12m程度)を設け、傾斜した部分に腰掛けて客席になるような工夫をする。
- ・ 円形広場を含めて、平らな広場は合計1000㎡確保する。
- ・ 緑の小山と広場には、もともと団地内にあったサクラやケヤキの高木を5本程度移植する。
- ・ さらに四季折々に花が咲く中木、低木を、山の中腹に植樹する。
- ・ 屋外で遊ぶための倉庫や井戸等を、適切な場所に設置する。
- ・ 屋外広場と緑道には、低照度の照明を設置する。
- ・ アリーナの東側壁面には、映像が照射できるような工夫をする。

3. 建物について

- ・ メインの入り口は、北側と南の広場側の2カ所とするが、サブの入口も北西に1カ所つくり、どこの方向からでもアクセスできるようにする
- ・ 1階の中心は南側に面するフリースペースとし、調理室付きカフェと一体的に150㎡程度確保する。
- ・ ホール・アリーナはボリュームが大きいので、西側及びテニスコートに近い南側の緑道沿いに寄せて配置する。
- ・ ホール・アリーナは、原則上足とする(他に上足は、2階の乳幼児の部屋)が、他室は原則下足のままとする。
- ・ ホール・アリーナの東側にはフラットな屋外デッキを設け、コンサートや演劇等イベント時は、内部と一体的に利用することができるようにする。
- ・ 屋外デッキは、日常的にはテーブルと椅子を設置し、屋外のフリースペースまたはオープンカフェとして利用できるようにする。(そのために、移動販売車(キッチンカー)等を置くスペースとして確保する。)
- ・ 屋外デッキは将来の増築スペースとして想定する。
- ・ 1階の東側の入口脇に、音楽室1、音楽室2、楽器練習室1、楽器練習室2、中高生室(詳細な仕様は、中高校生のWSで決定する)を配置する。
- ・ 音楽室と楽器練習室は小山の中に配置しているので、防音効果が高い。
- ・ 北西サブ入口脇に学童クラブ室を配置し、独立性の高い利用を想定する。
- ・ 1階北側には、シースルーの緩やかなスロープを設置し、ベビーカーやこどもの上下移動における安全安心面に十分配慮する。
- ・ 利用者の駐車場、駐輪場は原則として、緑道南側の共用スペース内とするが、北側通路側にも管理用の駐車場、利用者用の駐輪場を設ける。
- ・ 2階南側に乳幼児+お母さんの部屋、北側はコミュニティルーム(工作室仕様)・コミュニティルーム(図書室仕様)を設置する。
- ・ 2階諸室からは、屋外での遊びや作業を考慮し、山の頂上、屋上ガーデン、屋上広場に出やすい配置とする。
- ・ 屋上広場は、ネットを貼れるようにすることによって、簡単な運動や遊びができるように工夫をする。
- ・ 2階レベルから、アリーナのキャットウォーク(回廊)にアクセスできるようにする。

■ 2つの基本構想案：Y案

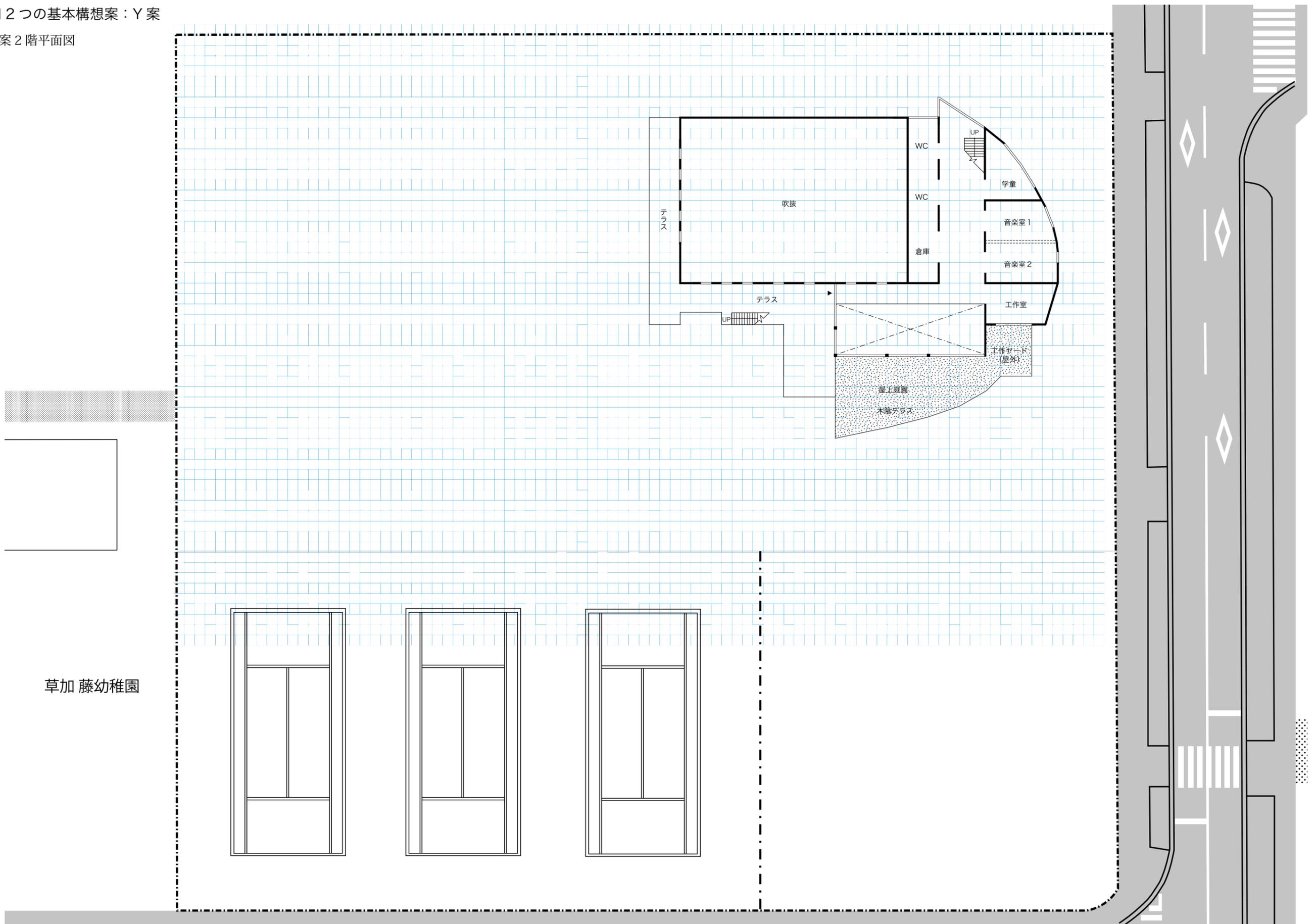
Y案1階平面図



草加 藤幼稚園

■ 2つの基本構想案：Y案

Y案 2階平面図



草加 藤幼稚園

■ Y 案施設及び屋外空間のイメージ



■ Y案の概要について

1. 敷地全体の利用イメージ

- ・オープンスペースを広く確保したいという要望を反映し、建物ゾーンと広場ゾーンを明快に分け配置する。
- ・駅からのアクセスに対応して、東側に配置された一風変わった建物が来る人々を迎える。一応正面とすることができるが、南側、西側のどこからでも自由に出入りできるような構えが特徴である。
- ・周囲は高木で囲まれ、10年以上経つと“森の中のお城”みたいなイメージになることを期待している。

2. 屋外空間について

- ・建物と広場の境界は地形のヒダを作って柔らかく分節、あるいはつなぎ、全体に見通しの良い空間となっている。
- ・周辺部に散策やランニングにも使える並木道を設け、土塁を回すことで広場全体が木々に囲まれた原っぱのようなイメージを醸し出している。
- ・ランニングコースは1周で300m弱の延長となる。
- ・平らな広場は約1500㎡確保する。
- ・野外遊びの拠点として倉庫や水場を設ける。建物と広場の境界部分の地形のヒダの中に埋もれるように配置する。ここには戸外の休憩スペースになる。
- ・樹木は、ミカンやザクロ、アンズなど、実のなる木をたくさん配置し、四季を通じていろいろな楽しみ方ができるような構成とする。

3. 建物について

- ・正面玄関は東側のカーブの頂点付近に設ける。
- ・玄関の左右に続く円弧状の壁面に沿って樹木が重なるように配置することで、ちょっとした木立の中に建物の入口が開けているような景色となる。
- ・建物北西部にアリーナ・体育館を設ける。15mほどの高さになるので、四周に低層階を配し、圧迫感の軽減を図る。
- ・建物中央に南北と東西の広い通路を設け、建物の中を素通りして景色が見えるような抜けの良い空間とする。
- ・フリースペースから全体が見渡すことができ、吹き抜けになっている2階ともつながり、視覚的にも建物の中心になっている。
- ・1階の部屋には極力仕切りを設けないことで、それぞれの活動の気配がお互いにぼんやりと分かるような関係を保っている。
- ・広場側にはウッドデッキとパーゴラ（日陰棚）を設け、半屋外の空間を楽しめる。
- ・外と面する諸室はガラス張りの開口部が広くとってあり、吹き抜けもガラスで囲うことで、広い空が見える非常に開放的な設えである。
- ・フリースペースと原っぱ広場との接点の位置にカフェを設け、フリースペースのたまり場としての活用と、屋外でBBQや餅つきなどをする際の調理スペースとして要の位置を占める。
- ・乳幼児の部屋は外部に面した日当りの良い一角にあり、屋外に小さい子ども専用の庭を設け、屋内と一体的に使えるようにする。
- ・乳幼児の部屋とカフェにはさまれた中央のコミュニティルームは、基本を図書コーナーとして学習や会議にも使える部屋である。外で本を読むにも便利な位置にある。
- ・東側のコミュニティルームは、主に中高生がちょっとやんちゃに遊んでも良い部屋であり、移動型簡易フェンスによっていくつかのコーナーに仕切って使うこともできる。
- ・ホール・アリーナはきちんと密閉し、二重扉とすることで音が室外に漏れにくいように配慮する。22m×16m=352㎡のひろさを確保した。
- ・ホール・アリーナは西側の広場に対して広い開口部を持ち、内部を舞台、原っぱ広場を客席としてコンサートや演劇を開くことができるようにした。
- ・倉庫は北側に配置し、搬入口は人の動線と分離した。
- ・2階の廊下は吹き抜けとしたことで、1階との空間の連続性があり、様子がよく見える。廊下からホール・アリーナを見下ろすこともできる。
- ・音楽室や工作室など時には大きな音を出しても他に影響がないように2階に配置する。
- ・音楽室は2部屋設け、それぞれ22㎡、28㎡の広さである。技術的に可能ならば、1室（50㎡）として利用できるような可動間仕切りを想定している。
- ・学童保育は他の子どもたちと活動が若干異なるため、2階に配置したが、もちろん1階のフリースペースに自由に出入りできるような使い方を想定している。将来、用途を変更して新たなコミュニティルームを設けることも可能である。
- ・2階廊下、工作室からは屋外庭園に出ることが可能。
- ・バルコニーから1階へ通じる階段を設け、2方向避難と回遊性を増している。

(3) X案・Y案比較表

項目		X案	Y案
大きな3つのポイント		①建物と一体的になった「みどりの小山」は、どこからでも見える！ ②ホール・アリーナとつながる「ウッドデッキ」は、松原っ子の活動舞台！ ③ガラスに覆われた「ゆるやかなスロープ」は、ベビーカーにやさしい！	①ゆるやかなカーブを描く「卵形の建物」は、花や実のなる木々で囲まれ柔らかい表情でみんなを迎える！ ②建物の南側の「大きな開口部」は、どの部屋も明るく開放的に演出する！ ③各部屋をつなぐ「吹き抜け」は、どこにいてもみんなの様子が分かり、大きな家みたい！
全体計画	共通点	<ul style="list-style-type: none"> ・北側に将来建設される戸建て住宅(D-3街区)に配慮した配置計画とする。 ・敷地の四周を歩くことができるように、幅3mの緑道を設ける。北側住宅地から小学校への動線を考慮し、南北に通り抜けできるように南北道路を設ける。 ・既存樹木をできるだけ移植する。また駐車場・駐輪場は、南側テニスコートの管理施設等と一体で整備する。 	
	建物の配置	敷地西側に配置	敷地東側に配置(広い広場空間を確保したい要望を反映し、建物ゾーンと広場ゾーンを明快に分ける。)
屋外空間	オープンスペース(大きさ・種類)	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の小山: 団地全体が平らなので、小山と建物が一体になった特徴的な形態で少し象徴的な空間とする。 ・山の頂上は、建物1階の屋上と同じレベルで、2階諸室の入口となる。 ・円形広場: 傾斜した部分に腰掛けられる平らな広場を設ける。(半径約12m、1000㎡確保) 	<ul style="list-style-type: none"> ・原っぱ広場: 敷地西側に運動ができるまとまった広場空間を確保する。(約1500㎡) ・小さな広場: 建物のバルコニーと一体で楽しむことができる囲まれた小さな広場 ・こども広場: 乳幼児が安心して遊ぶことができる屋外広場(乳幼児室のお庭のイメージ)
	付属施設	<ul style="list-style-type: none"> ・階段の登り口脇には、屋外トイレを設置する。 ・また、山にはトンネルがあり、楽器練習室に行くことができる。 ・屋外で遊ぶための倉庫や井戸等を、適切な場所に設置する。 	野外遊びの拠点として倉庫や水場を設ける。建物と広場の境界部分の地形のヒダの中に埋もれるように配置する。ここには戸外の休憩スペースになる。
	植栽計画	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の小山と広場には、もともと団地内にあったサクラやケヤキの高木を5本程度移植する。 ・さらに四季折々に花が咲く中木・低木を、山の中腹に植樹する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広場の四周にある緑道に、並木となるように高木を配植する。 ・ミカンやザクロ、アンズ等、実のなる木を数多く配置し、四季を通じ様々な楽しみ方ができる構成とする。 ・玄関の左右に続く円弧状の壁面に沿って樹木が重なるように配し、木立の中に建物の入口がある景色とする。
	駐車・駐輪	利用者の駐車場、駐輪場は原則として、緑道南側の共用スペース内とするが、北側通路側にも管理用の駐車場、利用者の駐輪場を設けエントランス脇に確保する。(約00台)	・搬出入用駐車スペースを2台分確保する。
	その他	・アリーナの東側壁面には、映像が照射できるような工夫をする。	
建物	共通点	屋内合計 約1100㎡(ホール/アリーナ…500㎡、フリースペース/休憩スペース…120㎡、乳幼児+お母さん…100㎡、学童クラブ…65㎡、調理室/カフェ…40㎡、集会室/工作室…40㎡、図書室/学習室…40㎡、中高生室30㎡、音楽室1(楽器)25㎡、音楽室2(ダンス)35㎡、事務室25㎡、WC1 25㎡、WC2 20㎡、倉庫35㎡)	
	形状・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・2階屋上・壁面に緑が多く小山と一体的なデザイン ・建物はブロックタイプ ・メイン入口は北と南の2カ所、サブの入口も北西に1カ所設置し、どこの方向からでもアクセスできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・壁面をゆるやかに曲線とした球形とする。 ・建物北西部にホール・アリーナを配する。約15mの高さのため、四周に低層階を回し圧迫感の軽減を図る。 ・建物中央に南北と東西の広い通路を設け、建物の中を素通りして景色が見える抜けの良い空間とする。 ・2階の廊下は吹抜として1階との空間の連続性を高める。廊下からホール・アリーナを見下すことも可能。
	ホール・アリーナ	<ul style="list-style-type: none"> ・ホール・アリーナはボリュームが大きいので西側及びテニスコートに近い南側の緑道沿いに寄せた配置 ・正方形として、大きさは500㎡の広さとする。 ・原則上足とする(他に上足は、2階の乳幼児の部屋)が、他室は原則下足のままとする。 ・東側にはフラットな屋外デッキを設け、コンサート等イベント時は、内部と一体的に利用可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホール・アリーナはきちんと密閉し、二重扉とすることで音が室外に漏れにくいように配慮する。 ・長方形として、大きさは22m×16m=352㎡の広さを確保 ・原っぱ広場に面し広い開口部を持ち、ホール・アリーナを舞台、原っぱ広場を客席としてコンサートや演劇を開くことができるようにした。
	1F諸室	<ul style="list-style-type: none"> ・1階の中心は南側に面するフリースペースとし、調理室付きカフェと一体的に150㎡程度確保 ・屋外デッキは、日常的にはテーブルと椅子を設置し、屋外のフリースペースまたはオープンカフェとして利用できるようにする。(そのために、キッチンカー等を置くスペースも確保する) ・屋外デッキは将来の増築スペースとして想定する。 ・1階の東側の入口脇に、音楽室1、音楽室2、楽器練習室1、楽器練習室2、中高生室を配置する。 ・音楽室と楽器練習室は小山の中に配置しているので、防音効果が高い。 ・北西サブ入口脇に学童クラブ室を配置し、独立性の高い利用を想定する。 ・北側にシースルーの緩やかなスロープを設け、ベビーカーやこどもの移動における安全面に十分配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1階は極力部屋に仕切りを設けないことで、それぞれの活動の気配が感じられるような関係とする。 ・広場側にはウッドデッキとパーゴラを設け、半屋外の空間を楽しめる。 ・外に面する諸室はガラス張りの開口部を広くとり、吹抜もガラスで囲うことで非常に開放的な設えとする。 ・フリースペースと原っぱ広場との接点の位置にカフェを設け、フリースペースのたまり場としての活用と、屋外でBBQや餅つきなどをする際の調理スペースとして要の位置を占める。 ・乳幼児の部屋: 日当りの良い一角に配し、屋外に小さい子ども専用の庭を設け、屋内と一体的に使える ・多目的室(南側): 図書コーナー兼学習や会議にも使える。外で本を読むにも便利な位置にある。 ・東側の多目的室: 主に中高生がちょっとやんちゃに遊んでも良い部屋であり、移動型簡易フェンスによっていくつかのコーナーに仕切って使うこともできる。
	2F諸室	<ul style="list-style-type: none"> ・2階南側には乳幼児+お母さんの部屋、北側は多目的室1(工作室仕様)、多目的室2(図書室仕様)を設置 ・2階諸室から屋外での遊びや作業を考慮し、山の頂上、屋上ガーデン、屋上広場に出やすい配置とする。 ・屋上広場は、ネットを貼れるようにすることによって、簡単な運動や遊びができるように工夫をする。 ・2階レベルから、アリーナのキャットウォーク(回廊)にアクセスできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽室や工作室は、大きな音を出しても他に影響がないように2階に配置 ・音楽室は2部屋、各22㎡、28㎡を設ける。1室(50㎡)として利用できるように可動間仕切りを想定 ・工作室は、屋外でも作業ができるように、屋内と屋外を行き来できるようなデザインとする。 ・学童保育は他の子どもたちと活動が若干異なるため2階に配置したが、もちろん1階のフリースペースに自由に入出りできる使い方を想定している。将来、用途を変更して新たな多目的室を設けることも可能
その他		・倉庫は北側に配置し、搬入口は人の動線と分離した。	

3 市民意向の把握～（仮称）松原児童センター基本構想市民検討会議～

（1）検討会議の概要

■目的

（仮称）松原児童センターは、「児童館」の機能だけでなく、高校生や大学生をはじめ、地域の幅広い人たちが利用できるまちの拠点となることが求められており、多くの方の意見や要望を聞き、みんなが使いたくなるデザインとなるように検討を進めていく必要がある。そこで、地域の町会・自治会、地域にお住まいの方、子どもやまちづくりの活動を行っている団体や個人の方、そして高校生や大学生まで、幅広い年代の方が参加する「（仮称）松原児童センター基本構想市民検討会議」を開催し、その中で基本コンセプトや諸室の内容などの検討を行った。

■進め方

会議は、自由な意見ができるように、市民参加によるデザインが専門家である早稲田大学参加のデザイン研究所の卯月盛夫教授を中心としたコーディネーターが、ワークショップ（WS）形式で進行した。

また会議の他に、現場ワークショップや地域のおまつりに併せてシール貼りアンケートなどを実施し、将来児童センターを使う子どもたちや地域の方の意見を積極的に取り上げながら、児童センターのデザインに反映させていった。

■開催スケジュール

第1回会議 日時：6月23日（木）18～20時 場所：旧松原児童館

- ・自己紹介、会議の目的・概要説明
- ・今後のスケジュールなど

第2回会議 日時：7月28日（木）18～20時 場所：草加市文化会館

- ・視察報告・意見交換
- ・敷地・周辺状況の把握
- ・夏休み調査隊について

第3回会議 日時：1月20日（金）18～20時 場所：子育て支援センター

- ・夏休み調査隊からの報告
- ・コンセプトや配置・平面図に関する議論

第4回会議 日時：2月21日（火）18～20時 場所：子育て支援センター

- ・第3回会議を踏まえ、3つのグループに分かれて図面を使って検討
[間取りデザインゲーム]

第5回会議 日時：3月21日（火）18～20時 場所：子育て支援センター

- ・2つの基本構想案（図面と模型）の提示と議論
[2つの提案模型を使った旗刺しワークショップ]

(2) 検討の経過

①第1回検討会議(平成28年6月23日)

- ・自己紹介、会議の目的・概要説明
- ・今後のスケジュールの確認
- ・児童センターに望むことについて(意見交換)



～会議で出された意見～

- こんな場所があったらいい
 - ・家みたいな場所
 - ・マンガや自動販売機がある
 - ・来ても来なくてもいい、何もしなくてもいい、誰でも来ることができる
 - ・子どもにとっての居場所
 - ・その子で居られるところ
- 対象について
 - ・共働きの家の子にも来て欲しい
 - ・違う学校の子との交流
 - ・高齢者との交流
 - ・子どものために活動している人
- 中学生の要望
テニス、フットサル、卓球、音楽、カラオケ、スタジオ、パソコン、自習室、おしゃべりする、自動販売機
- 活動や利用について
 - ・本に親しめる
 - ・お箸の持ち方やひもの結び方など手軽に教えられる
 - ・音楽、本、バンド、テスト勉強をしにくるなど目的をつくる
 - ・一緒に作って食べる
 - ・子どもだけで使える
 - ・科学実験など多様に使える
- その他
 - ・開館時間と小学生の塾のかねあい

②第2回検討会議(平成28年7月28日)

- ・川崎夢パーク視察報告
- ・視察を踏まえた意見交換（参加者全員からキーワードを出してもらった後、良い意見だと思ふところに、シールを貼ってもらった）
- ・夏休み調査隊について



～会議で出された意見～

■役割、理念を考えたい

- ・児童館の本来の役割、なぜ必要なのが課題

■「川崎市こども夢パーク」の気に入ったところ・参考になりそうなところ

○全天候型

- ・フラット行って自分で工夫して使う
- ・コンサートもできる / 天井高いのがよい / 雨降っても遊べる / ピロティで面積をかせげる / 外に向かって開いている
- ・いろんな使い方ができる / あの広さ
- ・好きな時に好きなことができる

○子ども会議事務室

○子どもが隠れられるスペース

○「ごろり」

○音楽室

○子どもの居場所 フリースペース「えん」

○屋上庭園

○工作室（創造室）

○手づくりすべり台

○サイクリングロード、緑の境界

○その他

■館長とスタッフの連携

■予算と運営、人材

③第3回検討会議(平成29年1月20日)

- 中断の経過説明、前提条件と敷地利用の考え方の説明
- これまでの振り返り（第1～2回検討会議、他施設見学など）
- これからの検討スケジュールについて
- 児童センターの基本的な考え方（コンセプトと基本方針、諸室の説明）
- グループワーク：4グループに分かれ、諸室案について意見交換



諸室について **Aグループ** NO.

部屋名	使い方	備品など
アリーナ 体育室		
中高生室		
集会室・工作室		
調理室/ カフェ		
図書室・学習室		
音楽室		
屋上		
フリースペース 休憩スペース		
プール		

諸室について **Dグループ** NO.

部屋名	使い方	備品など
アリーナ 体育室		
フリースペース 休憩スペース		
乳幼児+ お母さん		
図書室・学習室		
音楽室		
調理室/ カフェ		
児童クラブ		
中高生室		
その他		

■第3回意見まとめ

第3回検討会議のグループ模造紙の意見

グループ名	A			B			C			D		
	使い方	備品	Aに対する評価	使い方	備品	Bに対する評価	使い方	備品	Cに対する評価	使い方	備品	Dに対する評価
全体 について			☆小学生も大事だよ ☆どこまで土足なのか分けて考えて作りたい ☆どこまで土足か？				・AM乳幼児親子対象。PM(夕方～)小中高生対象 ・wifiの設置 ・屋上も使えたら？緑、運動場 ・屋上を有効活用したい！		☆wi-fiは、時代としても有効だと思います。子ども、子育て世代の方たちが来る一つの要因になると。あと充電できる環境もあるといいですね。 ☆何々の部屋と限定すると実際には他に使えない。何でも使える使い勝手の良い大きさの部屋を作って欲しい			
アリーナ・体育室 (更衣室・シャワー含)	・天井の高さはバスケットゴールに合わせて決定する(小学生用も用意する) ・盆踊りができるように ・体育室でダンスはできる？ ・音楽ホールについては防音性(工レキ等は音が相当に大きい)、反響性(あり過ぎてなくも駄目です)を確保するように ・音楽ホールは450席の作り方がポイント。舞台は奥行き10m以上、バックヤードを広くとる、倉庫の面積が狭い	・音楽発表なら舞台を大きく幕もほしいね ・可動式の鏡もほしい ・大きい窓があれば夜間は鏡の代わりにして使える		・今の条件は最低必要。 ・音響、バックヤードなど専用にするのはこの規模では難しい。こどもやおじさんバンドの演奏程度でよい。 ・早めに方針を判断してほしい。	・観客席はパイプ椅子。 ・ボルダリング。 ・壁当て。	☆どうしても	・ホール仕様:子どものニーズは？(特に小学生・乳幼児) ・アリーナ(体育室):ホールとスポーツが両立できるような部屋に可動システムを設ける!!	・明かりの調整機能		・バドミントン、バスケ、卓球が同時に遊ぶことができる空間、高さがほしい ・可動フェンスはとて良い。バドミントン、バスケ、卓球が同時にできれば部屋の利用はいいのでは。 ・同時にバド×2、バスケ×1、卓球×4 ・ボルダリングの壁は10m、俯角がついていると良い。 ・アリーナ・体育室にフリースペースもつけると良い。パーティション		☆ボルダリング:賛成です ☆ボルダリングを広いところへ
フリースペース ・休憩スペース	・年代、世代を問わず自由にたまれるガヤガヤできる場所		・監視役みたいになると中高生は来ない、うざいと思われる。 ・仕切りが要る。低い棚、よしかかれて目線が通る、動かせるもの。 ・時間で使い分ける。 ・フリースペースの近くにカフェ	・動かせる、大小のテーブル	☆テーブルは大小あるといい		・飲食可(スペースを決める?)		・フリースペースに畳スペースをください(ふすまできれるように) ・カップラーメンを食べたり、くだらないおしゃべりが気兼ねなくできる机の配置		☆フリースペース、たたみの場所。お茶のお点前	
乳幼児 +お母さん				・乳幼児室の近くにバギー置き場。	☆バギー置き場にだっこひもをする時の作業台		・ランチtimeはどうするの？		・乳幼児・お母さんの集いの場所は大きくしないのでは。(ロケットがあるので) ・//の部屋は現支援センターでよいのでは。→その分、フリースペースを広く、棲み分けできるように			
学童クラブ			・学童クラブは児童館とはコンセプトが違うので違和感があるが、つくる方向はよい。 ・学童の子は学校後に必ず行くが児童館の子は行っても行かなくても自由という違いがある。たとえば児童館祭りの企画を考える場合に、毎日いる学童クラブの子のほうにどうしても比重がかかるってしまう。 ・将来、子どもの人数が減ったら別の用途に変えていけばよい。 ・学童クラブの入り口は別にする。 ・職員も別々。						・学童クラブは別仕様にする必要あり。 ・学童クラブの部屋は別施設として考えたい		☆学童クラブと児童館分ける。さらにクラブの子と通っていない子がお約束して遊べる仕組みも	
調理室 /カフェ	・大人、高齢者がにぎわいを消費しにしやすいスペース ・屋外につながるオープンカフェ的に使える ・外につながると餅つきもできる		・できたら楽しい。 ・今のルールは利用しにくい。自由にこども主導で利用できるようにする必要あり。好きな時に友だちと料理できるところ。たとえば、バレンタインのチョコを友だちとつくとか、やりたいと思う。 ・入り口付近にカフェがあり、珈琲の香りが漂ってきたら素敵。 ・中高生がカフェを運営する。		☆カフェを中高生が運営するという考えは素晴らしい。こどもながら社会経験ができる ☆こどもの「今使いたい」が非常に大切だと思う		・ママカフェができるように!!乳幼児をつれてパーティ		・ミニキッチン:家庭用くらい。自由にお湯・ガスコンロ使える			
集会室 ・工作室	・実験もしたい! ・カイロづくり/バルーンづくり/青銅鏡づくり/スライムづくり/シャボン玉 創作に特化するか、多目的に使えるようにするかを検討する		・児童館の目玉であってほしい。 ・集会室と一緒にというイメージがつかない。 ・お父さんが木工する姿をこどもに見てもらえたらいい。 ・お父さんの出番。 ・今はこどもたちが使い方を知らないからやらないのではないか。	・おそうじしやすい床面					・中高生室はライブハウススタジオにできるように ・フリースペースがあるなら、中高生ルームは要らない? (溜まり場、縦割りを招く) ・中高生室のネーミング×(小部屋1、2で良いのでは)			
図書室 ・学習室	・小学生(中高生も?)黒板にラクガキしたい						・図書館とのコラボ ・学習用のフース ・パソコンは絶対必要		☆用途を分けるの大賛成(図書館が近くにあるので)	・図書館が近いので、乳幼児向けの図書室は不要? ・図書館との住み分け:雑誌、マンガなど、参考書 ・乳幼児:ゆったりと読み聞かせなどしながら遊べる。中高生:学習机や個別の机 ・マンガ・雑誌の持ち込みできる図書室		☆音楽室:可動式のアイデア
中高生室	・カーペットでゴロゴロできる多目的に使える部屋 ・運営委員室に子ども用もあるといい ・「たより」の発行のために印刷機もほしい		☆印刷機良さそう、よくチラシとか参考書とか印刷してる ☆「中高生の居場所」思い至りませんでした ☆中高生の会議(運営)印刷機やホワイトボード ☆中高生が自分の部屋という意識を持てるように!!同感です	・分ける場合9㎡は狭すぎる。 ・そもそも何をやる部屋か?会議をするなら中高生会議室とする。			・何に使えるの? ・中高生室? :30㎡何ができる?					

第3回検討会議のグループ模造紙の意見

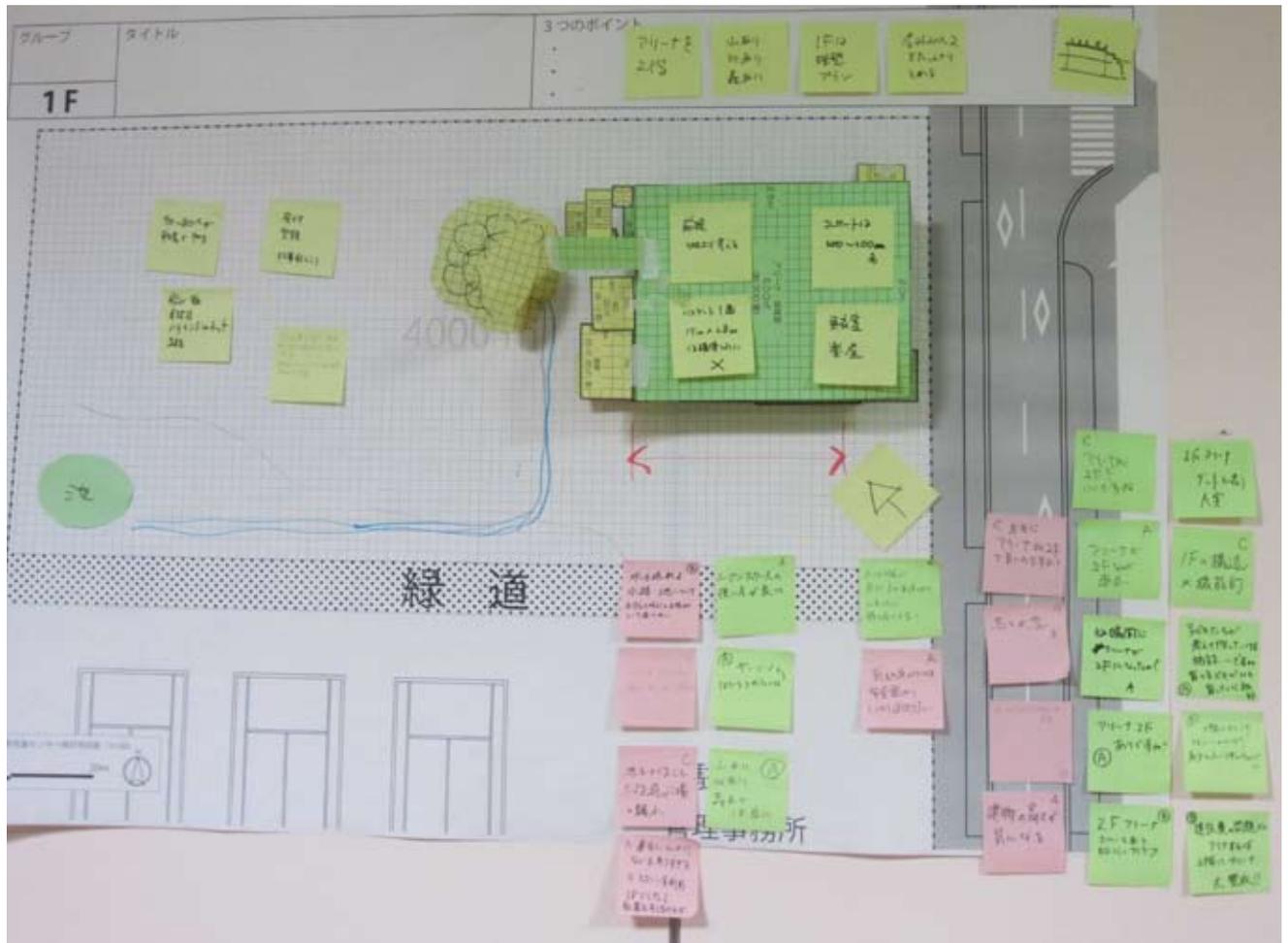
グループ名	A			B			C			D		
	使い方	備品	Aに対する評価	使い方	備品	Bに対する評価	使い方	備品	Cに対する評価	使い方	備品	Dに対する評価
音楽室1 (楽器)	■15畳 ギター×2/ボーカル/ベース/ドラムでギリギリ、キーボード/プラス楽器などバンドの多様な楽しさを体験できるようにしたい ■21畳 楽器もあるの？ ■他 一人で練習するのならピアノ付きの小さな個室があるとよい				・備え付けのドラムセット		・音楽室のイメージから部屋を区切る必要はあるか？					・1階最奥に配置するのが良い。(機材の搬入が難しく、上階だと音が響くため) ・各部屋をつなげてライブができるように。×3 ・音楽室の壁:可動式のアイデア
音楽室2 (ダンス)												
事務室							・基本的にはopenスペース ・子どもと一緒に使える部分も必要 ・保健室のようなスペース(ちょっと仕切られている感じ)		☆話がしやすい、内装・スタッフ			
WC1、WC2	・男子1ブースでは少ないのでは？ ・外からトイレも多目的トイレがあると良い											
倉庫							・部屋の間など、どこからでも使える場所に ・大きくて困ることはない。外に物を出さなくて済む		☆良いぞ ☆どの場所でも自由に使えるような倉庫、PC、wi-fiの整備 ☆倉庫			
その他	■屋上 ・屋上にボウスポーツができる空間があるとよい ・屋上のフットサルはニーズが高いかもしれない ・簡単な野球ができると良い	・ハンモック	☆賛成×3 ☆地域との接点を作ること は大事です、カフェなどはどう？	・医務室。							・小部屋をすべて防音に。音楽などもできるように。 ・特定の部屋以外で壁を撤廃	☆壁:いらぬいんじやないか
屋外	■プール ・子どものプールがほしい ・プールに限らず水遊び ・常設ではないけどたまにBBQができる ・陶芸窯よりピザ釜 ・盆踊りがしたい	・平らなところ/起伏のあるところ ・畑	☆ぜひ ☆外と連動できる場が良い ☆屋上の利用、小さいながらも水辺	・井戸を掘りたい。水遊びができるし、災害時にも役立つ。 ・冒険遊び場をつくるには面積が狭い。プレーリーダーも必要になってくるので冒険遊び場は難しい。 ・平らなままではなく山や水場をつくる。	・防災用備蓄倉庫。 ・松原小学校には備蓄されているが、そこを分けておく。 ・木、水(川)のあるもの ・壁 ・20年くらいたてば森になれる ・植樹	☆照明灯 ☆井戸いいね～、水遊びも×4 ☆プレーパークでなくても起伏、木、水(川)のあるもの ☆壁 ☆20年くらいたてば森になれる ・植樹	・早朝(開館前)のグランド使用・開放 ・七輪など火が使える。 ・オープンカフェ ・木登りができる環境(大きな木) ・安心して遊べる庭(大きな) ・緑道、水遊び ・フリースペース、子ども:自転車練習ができる ・砂場遊び ・池を設置してほしい。 ・倉庫あり ・屋外早朝グランドゴルフ、ラジオ体操、軽い運動など ・デイキャンプ、水場 ・緑道にベンチ設置 ・ざりがにつりができるように		☆時間によって、グランドゴルフなど使えるようにしてほしい。 ☆自然に注目している ☆デイキャンプ、オープンカフェ(通りすがりの人が使える) ☆児童センター:子供達が安心して使える。 ☆緑道のベンチで子どもの様子が見られる。 ☆デイキャンプ、ピオトープ、木登りなど。屋外の使い方が素晴らしい ☆屋外の安全を確保という視点は大事 ☆屋外のポイントが良かった	・通路は広く確保したほうが良い ・屋上をつくり有効活用したらどうか →施設を有効活用する工夫 ・屋外で音楽ライブができると良い ・児童センターの壁でボルダリングできるようにする		
その他				・運営する人が大事 ・子どもと子ども、子どもと大人をつなぐことができる人		☆よい管理者を！	※未記入		☆だれが利用するか、コンセプトをしっかりと話し合ったから建てた方がよい		・今後、この広さのこどもの施設が出来ないのだとすれば、思い切りユートピアな施設にしたい ・音響設備が整った音楽ホールについて、別施設にしたほうがよい ・各部屋の用途を明確にすることが大事なこともあるが、中高生室などその他の部屋は特定しなくても良いのではないか。	☆トップバッターおつかれさま

④第4回検討会議(平成29年2月21日)

- ・前回の振り返り
- ・グループワーク：間取りデザインゲーム
(各部屋のカードを敷地に置き、建物のボリュームや部屋ごとの関係を考慮しながら、間取りを決めていくワークショップ。3グループ各10名程度に分かれて、それぞれのプランを作成し、発表の後、良いと思う点にシールを貼ってもらった。)



第4回会議グループまとめ



Aチームの提案

○提案のポイント

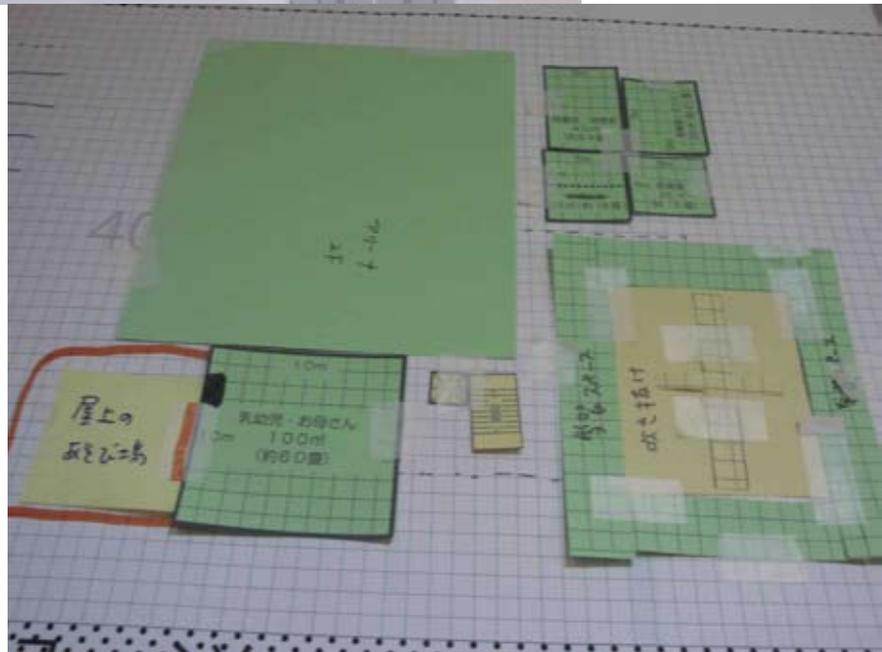
- ・ 建築面積を最小限にする
- ・ 2階にアリーナをつくり、バスケットコート1面は確保する
- ・ みんなが集まる部屋は、南側に開放的につくり、個室は北側につくる
- ・ フリースペースから出入りする
- ・ 幼児とお母さんの部屋はフリースペースと一体化させる
- ・ 屋外はできるだけ広くとり、1800㎡程度を確保し、森と山と川をつくる
- ・ 山から2階の部屋がつながる



Bチームの提案

○提案のポイント

- ・将来、北側に建つ住宅に配慮して、建物は南側に寄せる。東側道路から搬入
- ・フリースペースを通して出入りし、調理機能の付いたカフェを併設
- ・多目的室は調理機能を付けて調理室や工作室として使えるようにする
- ・音楽やダンス用に？小規模な練習室を複数つくる
- ・音楽室は2部屋を一体的に使える
- ・倉庫は個々の部屋につくる
- ・屋外はまとまった空間を広くとり、周囲には緑の空間をつくる



Cチームの提案

○提案のポイント

- ・フリースペースは吹き抜けで2階には学習スペースがある
- ・リビングルームみたいな感じにいつでものぞける
- ・アリーナは屋外に直接出られ、雨でも使える半屋外のスペースがある
- ・カフェは調理室や工作室の近くにある
- ・乳幼児とお母さんの部屋は2階にあり、専用の屋外の遊び場をもつ
- ・音楽室は連結しても使える
- ・屋外は広くとり、山や井戸、水の流れがある
- ・緑道からはどこからでもは入れるが、その場合の安全面は課題
- ・敷地の外周には緑の散歩道がある

⑤第5回検討会議（平成29年3月21日）

- ・前回のふりかえり等の説明
- ・グループワーク：2つの提案模型を使った旗刺しワークショップ（WS）



第5回会議意見一覧

X案について

～1セット目～

【良い点】

- ・音楽室の位置がすばらしい
- ・外につながっていて多様性がある
- ・丘そのものはとても幸せを感じます
- ・山：子どもたちが遊ぶのに良い
- ・中高生が会議をしたり、運営について考える部屋があるのは良い
- ・アリーナの壁でプロジェクション
- ・入口の開放感、中高生につながっているのが良い
- ・練習室
- ・スロープは良いと思います
- ・個室練習室いいですね
- ・屋外デッキとアリーナの接続案は良い
- ・窓あり図書室は開放的でいい
- ・緑が多い
- ・屋上デッキ大好きです
- ・景観の多様性、普通でない美しさ
- ・乳幼児の環境として良い
- ・段々とした山の高さ（住宅側に配慮）
- ・外観はすばらしい
- ・グッドデザイン、良いと思います
- ・広場の景観が良い
- ・壁に映写は良いと思います
- ・アリーナの広さは頑張っていただけだと思う
- ・周囲の3mスペースは利用価値大と思われる
- ・広場の観客席、自然と一体化していて良いと思います
- ・お料理もできる多目的室に。
- ・工作も料理もいいね
- ・あそべる場所をふやして good
- ・学習室もあってほしい

【改善点】

- ・出入り口が多いのは…
- ・屋上ガーデンは屋外舞台を兼ねると良い
- ・利用者の出入りを確認できる出入り口が必要（どこからでも出入りすることができるのは良いが…）
- ・片隅の広場が有用か。
- ・もう少し大きく調理室がほしい
- ・楽屋は会議室等共有できた方が良い
- ・アリーナにピアノと収納場所がほしい
- ・もう少し短く
- ・音楽室にはピアノがほしい
- ・バスケのゴールをたてたい
- ・井戸等水をくみ上げて水の流れを楽しみたい。小さく浅いもので良いが
- ・自販機などの方が良い
- ・外での水場がほしい
- ・多目的として使用すると老人・子どもの憩える場所でなくなる恐れがある
- ・多目的に使いつらいのでは
- ・廊下が土まみれになる？（図書室は土足厳禁にすべき）
- ・遊具か砂場がほしい
- ・スタッフルームは全体が見渡せるところが良いのではないかと？
- ・外の様子がわからない
- ・WC、シャワー室、楽屋の構成の検討あり
- ・スロープはガラス張りにするのなら、やっぱり南か中央が良いです。
- ・アリーナに大きな入口がほしい（トラックが横づけしたい）
- ・壁打ちのかべがほしいね
- ・山の中に埋めてしまうことは可能か？（防音的にも優れるかと）
- ・老人が憩えるよう桜を植林してほしい
- ・せまい
- ・お料理もできるように
- ・5m道路広くない？
- ・ボールをあてる壁がない

X案について

～2セット目～

【良い点】

- ・ 静かな場所、にぎやかな場所をわけるのは良い（場所は変えたい）
 - ・ コンセプトは興味深い（後は材質）
 - ・ 移植樹木の使い方 近づけてハンモック（アスレチック）としてもよいのでは
 - ・ 外トイレOK
 - ・ 全部を冒険したり走りまわったり。広場をぐるぐる回りたい 起伏・トンネル・絶壁
 - ・ 屋外デッキおもしろそう
 - ・ フリースペースにカウンターキッチンがあるのがグッド
 - ・ 山の頂上から直接屋外ガーデンにいけるのは面白い
 - ・ 壁面に投影（プロジェクションマッピング）とかできれば良い
 - ・ アリーナ周りのキャットウォーク
 - ・ 周辺の散歩道（樹木あり）はよい
 - ・ 地面にもスロープで明るさがとれている
 - ・ ガラス張りのスロープはグッド
 - ・ スロープは楽しそう
 - ・ 外から見えるスロープはグッド
-

【改善点】

- ・ 盛土のスロープのような高低差部分でも緑道（ランニングコース）にしてみてもどうか。1F～2F～1F
- ・ 天井・壁面に明かり取りを入れた方が良いのでは
- ・ 大きな壁面がコンクリートなのは、圧迫感。児童センターのイメージから違和感がある
- ・ 砂場がほしい
- ・ 高齢者との共用。グランドゴルフができるスペースがないのは残念
- ・ 大きい子（小～中高生）ボールであそべるか心配
- ・ 盛り土でのスロープでなく吊り橋（人工スロープ）かデッキのような仕様（雨水流失施設対策）
- ・ ボルダリングができないか
- ・ 土はいいけど、流れる量が多く、メンテナンスが大変かな
- ・ 屋根とベンチがあるスペースでいいかも。
- ・ きちっと調理できるスペースに
- ・ 2Fからの入り口はフリー？
- ・ 屋外ガーデンも緑いっぱいになるといい。幼児がかくれんぼしたり。
- ・ 壁当てはどこでできる？
- ・ 土の小山。楽しそうだけど流れてしまうのではないか
- ・ フリースペースの使い方が難しそう
- ・ 全体に対してアリーナに重点が置かれていないか
- ・ シャワー室はいらなと思う
- ・ 楽屋・更衣室は必要か？

Y案について

～1セット目～

【良い点】

- ・木は落葉樹で
- ・中央のフリースペースから東西・南北が素通しで見えるのは素敵だと思う
- ・こどもの庭は良いと思う
- ・どこからも外が見えるというのは良い
- ・フリースペース広くて良い
- ・どこからも外が見える
- ・小高い丘を設けるのは、カフェ利用者にも和める
- ・乳幼児のこどもの庭は良い案だと思う
- ・こどもの庭があるっていうのが良い
- ・屋上庭園 かってにゴロゴロ。きもちよく
- ・外観（曲線、土塁、並木道、中庭）good
- ・アリーナ、外とのつながり
- ・アリーナと庭の関係
- ・外からアリーナが見えるのは良いと思う。
- ・まわりがベンチ風の囲いはいいな。どこでも座れる
- ・境界が塀でない
- ・周辺がジョギングできる周回にしてあるのは近隣との接点としても有効
- ・広いスペースが良い
- ・高齢者との共用：利用として、広いスペースの広場・グラウンドゴルフにも使えるので、ぜひ確保してほしい
- ・自然を感じる空間が良い

【改善点】

- ・トイレ・水場の必要
- ・周辺に緑道（樹木）を設けるのはすばらしい。しかしセキュリティ確保のため、外周部は緑を損なわない工夫の柵（のようなもの）が必要
- ・外から出入りするので、アリーナの外側に水道と水でいいのでシャワーをつける
- ・かべうちはどこで？
- ・緑道を児童センター敷地だけでなく、テニスコート部分にも広げてはどうか。
- ・「静」と「動」の空間は仕切るべき
- ・多目的室2室は子ども（中高生）が使い方を考えるスペースにしたい
- ・中高生の居場所（活動的なことだけでない）
- ・「気軽に」がメリットなら、シャワーの確保は必要か？
- ・音楽室をアリーナに接しさせてコンサート時は音楽室部分で演奏できるようにできないか
- ・アリーナ：天井・2階壁面に明かり取りを設けると開放的・明るさにもいいと思う。
- ・シャワー室を作るならそのスペースをステージに。
- ・外水道：中にもトイレ以外にほしい
- ・学童の使い方・関係性
- ・アリーナが正式コートでないならば、屋根の形状を変えて、光を取り入れてはどうか？
- ・屋根もまるく

Y案について

～2セット目～

【良い点】

- ・屋外工作ヤード大好きです。
- ・工作室は調理室にも使えるように
- ・音楽室がつながるのは良い
- ・EVは打楽器がはいる大きさがほしい
- ・東側から見たデザインはすばらしい
- ・卵型はおもしろい
- ・実なる木、とても夢があり楽しみ
- ・こどもの庭、非常に良いです。ガラスで見えるのも良い
- ・こどもの庭とても良い
- ・全体的な見晴らしの良さ。すばらしい
- ・東側の建物。いいですね
- ・屋外倉庫いいです
- ・屋外の溜まり場は良い
- ・入り口より見通しが良い
- ・野球がしたいです
- ・小中高：同時に遊ぶスペース。とても難しい
- ・外のワークスペース良いです！！
- ・音楽室がつけられる
- ・ふきぬけの開放感は良いと思います
- ・建物の形：楕円形がいい
- ・カーブがかわいい。雰囲気がよさそう
- ・アリーナが広いのがいいですね
- ・駐輪場があって良い
- ・乳幼児用の小さな広場は良い
- ・小さい子が安心して利用できる広場はよい
- ・実なる木は子どもたちは大好き
- ・盛り土でのスペースの区切り良いです
- ・東屋がいいです。樹木のイメージが良いです
- ・遊具がおける砂場
- ・広く使用できるはらっぱは良い
- ・全体デザイン：X案が良い

【改善点】

- ・ゴロゴロくつをぬぐ。フリースペースと一体化はNG
- ・アリーナと外をつなげる必要はあるのか？設えがつかいづらい
- ・対象がはっきりしてほしい。混在はむり！
- ・楽屋的な部屋がほしい
- ・中高生が運営について話し合える場がほしい。
- ・事務室が広場をみわたせる場所にある方がいい
- ・夏はプールになるような。それ以外はこのまま
- ・外用トイレ
- ・水はどこを流れていく予定なのかな？
- ・こんもりした森と高台があれば良い。Xプランの二階に通じる丘がすばらしい
- ・外用WCは
- ・回廊部分がもう少したまりになれる幅がない
- ・かべうちの壁がほしい。バスケットゴールがほしい
- ・吹き抜けは明るい部屋にした方が居場所が増える（中高生）
- ・全体的に部屋数が少なく感じる
- ・音楽室2F…ドラムの音が大丈夫かな。学童のとなり、心配です。
- ・学童の入り口は別がいい
- ・観客席を屋外にとるなら、2階の外壁はもう少し開放的が良いのでは。
- ・応援できる、ギャラリーがもっとみやすくほしい
- ・壁がほしい。ボール1人キャッチボール、1人テニス
- ・広いままの空間だと危険な遊びが考えられる木をちらばせる
- ・バギー置き場
- ・中高生 運営会議部屋がほしい1Fはよい
- ・フリースペースのカフェは誰のもの？大人？
- ・小さい子の隣の部屋はうるさくないか？
- ・砂場をください
- ・外用水道がほしい
- ・死角になるのでは
- ・ど平坦すぎる。傾斜がほしい
- ・はらっぱ広場はあまりにも大きく平坦すぎる
- ・ネットがほしい
- ・学童専用の出入り口がなくて大丈夫？
- ・広がりのかんがほしい
- ・緑道、汚れませんか？

4 参考資料

(1) 夏休み調査隊について（先進事例の整理）

①夏休み調査隊とは

目的

1. 松原児童センターの計画づくりを多くの人に知ってもらう
2. 松原児童センターへの意見やアイデアを広く集める
3. 調査結果を第3回会議で報告し、計画にいかす

調査隊の活動計画

1. 夏のイベント会場で意見を収集する / 子ども意見ボード、大人アンケート

その1) 交流サマーフェスティバル

日時：7月30日 場所：草加市市民活動交流センター

その2) 松原児童館まつり（団地まつり）

日時：8月20日 場所：コンフォール松原

2. 周辺子ども施設を訪問して聞き取り調査をする

その1) わくわくタウン松原

日時：9月20日 場所：草加市勤労青少年ホーム2階調理室

対象：宮本館長

その2) 氷川児童センター

日時：9月20日 場所：氷川児童センター1階事務所

対象：下村館長

その3) 松原小学校

日時：10月7日

対象：小林和美教頭先生

その4) 栄中学校

日時：10月7日

対象：遠藤淳一教頭先生

3. 他地域の先進事例を見学・ヒアリングし、児童センターのあり方を学ぶ。

その1) 川崎市こども夢パーク

日時：6月30日

その2) 麻布こども中高生プラザ

日時：9月30日

その3) ゆう杉並

日時) 10月7日

その4) ぐう春日部

日時) 10月14日

■夏休み調査隊まとめ

第1回検討会・第2回検討会のおもな意見／見学とヒアリング調査結果の整理表

		第1回検討会	第2回検討会	松原児童館	氷川児童センター	川崎市子ども夢パーク	麻布子ども中高生プラザ	児童青少年センター 愛称:ゆう杉並	春日部第2児童センター 愛称:ぐう春日部	松原小学校	栄中学校
基本情報	運営法人			草加市	(公財)児童育成協会	指定管理(川崎市生涯学習財団とNPO法人フリースペースたまりば)	(公財)児童育成協会	杉並区	アクティオ株式会社		
	建物形状/規模				2階建/395.762㎡		2階と4階一部/1,637㎡	2階+地下1階/2361.08㎡	3階と4階/1,490.02㎡		
	併設					フリースペースえん(不登校児童の居場所)を併設	高齢者施設、保育園との複合施設	中高生世代が主役	子育て支援センター、保育園、商業施設の複合施設		
	利用状況/利用者数			0~3才が7割、年間800人	年間37,000人/おもに谷塚中、草加中。小学生から来る子が多数		年間109,262人(一日平均316人)そのうち半数強が乳幼児と母親が占める	年間60,191人(一日平均212.3人)登録中高生グループ220団体	年間78,556人※H26年度(一日平均233.3人)		
理念、目標像	家みたいな場所・マンガや自動販売機がある・来ても来なくてもいい、何もなくてもいい・誰でも来ることができる・子どもにとっての居場所・その子で居られる	児童館の本来の役割、なぜ必要なのか課題		目的ではない「居場所」で、その居場所は子ども主体であること。大人の価値観をおしつけない。	子どもの自由な発想で、遊び、学び、つくり続ける施設		それぞれの中高生が求める居場所依存しない、宿り木のような存在・人間力を身に付ける場所「未然の福祉」の一助		思い切り大きな声でも遊べる場所生活に潤いが感じられるといい	ひとりでもいられるし、友だちと遊んだりおしゃべりができる・落ち着いた居場所・学校と家庭の間のような存在・家に帰っても誰もいない時に子どもが居ることができる場所	
対象	共働きの家の子にも来て欲しい 違う学校の子との交流 高齢者との交流 子どものための活動している人			誰のための施設かを明確にする必要がある。・全市対象か、中高生か、乳幼児か・中高生のための場所は少ない、特に屋外施設は貴重・母親には仲間が見つけられるところになるといい	川崎市子ども夢パークは、子どもの「やってみよう」を大切に、子どもが自由に遊べる場所です						
建物・設備	体育館・体育室・アリーナ・更衣室	(中学生の要望) テニス、フットサル、卓球、音楽、カラオケ、スタジオ、パソコン、自習室、おしゃべりする、自動販売機	○全天候型 フラット行って自分で工夫して使う コンサートもできる/天井高いのがよい/ 雨降っても遊べる/ピロティで面積をかせる/外に向かって開いている いろんな使い方ができる/あの広さ/好きな時に好きなことができる	○使い分けができる 下の子から上の子までがつながっている 同じ部屋を使い分ける 静かなところとそうでないところを明確にする 何でもできる部屋や場所を設けておく	○全天候型広場「たいよう」、更衣室はないが、シャワーブースあり	○可動式のステージ、倉庫	○地下1階、吹き抜け天井、倉庫、ロッカーコーナー(コイン返却式)	○簡易ステージ、倉庫、男女別の更衣室・シャワー室あり			
	フリースペース・休憩スペース				○子どもの居場所「えん」を併設	○円形大テーブル(コンセント付)飲食自由。パギー置場	○「ロビー」飲食自由。自動販売機設置	○ロビー(交流スペース):飲食自由			
	保育室・こそだてひろば		○子ども会議事務室 ○子どもが隠れられるスペース ○「ごろり」 ○音楽室	○きれいな過ぎない 張り替え自由にすれば落書きできる	○2階「おもちゃばこ」。ランチルーム(畳)を併設	「優流里(ゆるり)」	○30畳、専用倉庫とトイレ、授乳室。引き戸には指はさみ防止。ランチタイム11:30~13:00。		△図書室や多目的室、交流スペースなどを利用		
	学童クラブ室		○倉庫は重要 子どもだけで使えるもの、職員でなければ使えないものを分ける どこからでも倉庫に入れる			○保護者と連絡ノートを交換、冷蔵庫、流しシンク					
	調理室・カフェ		○屋上庭園 ○工作室(創造室) ○手づくりすべり台 ○サイクリングロード、緑の境界	○部屋は多目的に使えるといい				△多目的室に調理設備あり			
	集会室・多目的室・工作室				○卓球台、ピアノ、ドラムセット、ゲームを備える	会議室(2階)・川崎市子ども会議事務室を兼ねる、創作スペース(ピロティ)	○「ゆうぎ室」区切って使用。乳幼児~中学生/創作室に作業机。水場 *おもちゃ図書館併設	○2室	○集会室2室(会議室の雰囲気)、多目的室1室		
	図書室・学習室					交流スペース「ごろり」	○書架、防音室	○「学習コーナー」個人ブース	○自主学习室:個人ブース約25席		
	中高生室							○「ミーティング室」中高生運営委員会用の部屋			
	音楽室・スタジオ					2室(空いている時は地域の大人も利用可)	○2室 ①室 楽器 ②室 ダンス	○3室/利用には講習会受講が必須ミキシングルームは最新機材	○2室+待合スペースあり(事前予約が必要)		
	事務室				○受付窓口を設置	受付窓口を設置	○ガラス窓越しの受付、となりに相談室	○受付カウンターとつながる。付近に相談室3室	○受付カウンターとつながる。相談室とは若干離れている		
	WC				○		○	○	○		
	倉庫				○		○	○	○		
	玄関・エントランス・ポーチ				○?	自由に入出入り	○来館したら登録バーコード入力	○入館カード/ゆうカード	○受付カウンターに入退館システムを導入(パソコン上でどこにいるか検索可能)		
	屋上					「ハイジの間」ハンモック	○ローラーブレード、ローラースケートに利用		○運動スペースとして利用		
	屋外の遊び場・グラウンド				○冒険遊び場を併設	冒険遊び場を併設(ログハウス、ビザ釜)					
	駐車場/駐輪場				駐車場なし、駐輪場あり	障害者用のみ	駐車場なし、駐輪場あり?		駐車場、駐輪場		
	その他				不登校児童フリースペース「えん」併設	2階に屋根裏スペース、屋外に畑、花壇、サイクリングロード		「ゆうホール」観客席は可動式。舞台壁面にフリークライミング	マルチメディアスタジオ(パソコンルーム)あり		
					集団でも個人でもいられるところ						

■夏休み調査隊まとめ

第1回検討会・第2回検討会のおもな意見／見学とヒアリング調査結果の整理表

		第1回検討会	第2回検討会	松原児童館	氷川児童センター	川崎市子ども夢パーク	麻布子ども中高生プラザ	児童青少年センター 愛称:ゆう杉並	春日部第2児童センター 愛称:ぐう春日部	松原小学校	栄中学校
運営・ 人員 体制	スタッフの体制		館長とスタッフの連携	1日4人			常勤12人、非常勤11人 各室に職員配置	常勤11人、嘱託員7人 1日3ローテーション勤務	常勤8人、非常勤6名		子どもの相談にのってくれる
	開館時間		予算と運営、人材	10時～16時半、17時、17時半	10時～18時／小学生は夕焼け チャイムまで	9時～21時	9時30分～20時	火～土:9～21時/小学生～17 時、中学生～19時、高校生学 習利用～21時。日・祝・休館日 以外の月曜:9時～17時	10時～20時		
	休館日			日曜	年末年始	年末年始、月1回(施 設点検)	年末年始、祝日	年末年始、第2・4月曜	年末年始		
	運営への参加(こども、地域)					子ども運営委員会、運 営委員会		中・高校生運営委員会、利用者 懇談会(年3回)、目安箱「ゆうに 一言」			
	情報発信						月間通信「あざぶPRESS」、子 育てひろば月間通信「あざぶ ほかほか」		講座・イベント予定表(周辺 学校へ配布)		
					しっかりとしかれるスタッフ	中学生はスタッフ(人)につくが、 小学生は場所の魅力に惹かれ る・心地よさが感じられて、笑顔で 迎えるホスピタリティ・開館時間は 若干、長くしたらよい一緒に食事 をして帰る日を月1回つくるなど・ 半年くらいシミュレーションしなが ら決める		心に寄り添うスキルと専門のスキ ル(音楽、ダンスなど)が求め られる 理屈じゃなくて話を聞いてあげ る人 大型の施設は全体を見ることが 難しくなる			
活動 内容・ 周辺と の関わり	自主企画	本に親しめる お箸の持ち方やひもの結び方など手軽 に教えられる/音楽、本、バンド、テスト 勉強をしにくるなど目的をつくる/一緒に 作って食べる/子どもだけで使える 科学実験など多様に使える		1週間単位でプログラムを実施 ・児童館で、高齢者と共有できるものがある かを検討する必要がある。	木工や革細工など地場産業を取り 入れて実施			中高生自主企画+プランター企 画+職員企画/中高生自主企 画が6割	職員企画中心/年間3回 の音楽ライブは高校生が 企画運営	折り紙や工作を教 えてもらえる お年寄りのいるそ ばを通して入る	いろいろな体験活動ができる
	大学生・OBOGの関わり							ピアサポート、青年部			
	地域との関わり・連携協力			児童館で高齢者と共有できるものがある かを検討要	老人クラブと年5～6回の催し		ボランティア協力事業(絵本、 紙芝居、人形劇) AZABU体験、子ども夜回り隊	地域のお祭りやイベント、保育園 や敬老施設ライブ	シニアボランティア(大きな イベントの手伝い・音遊び などの講師)		
							高齢者と子どもが交わるのは 難しい。うるさがる、ぶつかる 危険など		地元企業を中心として、ス ポンサー協力を積極的に 依頼※		
	他機関との関わり						ローラーホッケー大会、中高 生バスケ大会	学校連携、首都圏中高生ネット ワーク	春日部市を通じて学校と連 携		
使い 方 ル ール	飲食に対する考え方	開館時間と小学生の塾のかねあい		飲食は条件つき	たこ焼きとカフェ/第3日曜(イ ベント時流しそうめん、焼き芋)		自由		交流スペースのみ		
	子どもの荷物置場			鍵付きのロッカー			荷物を置く棚(学校帰りの中 高生)		基本的に自己管理		
	特徴のあるルール						17時50分、全員で片付けと掃 除				

②ヒアリング結果の意見整理

■児童センターの意義・役割

○めざす、児童センター像

- ・目的的不是な「居場所」で、その居場所は子ども主体であること。
- ・大人の価値観をおしつけない。
- ・思い切り遊べる場所、大きな声で遊べる場所。
- ・生活に潤いを感じられるといい。
- ・学校と家庭の間のような存在。
- ・家に帰っても誰もいない時に子どもが安心して寄ることができる場所。
- ・母親には、仲間が見つけれられるところになるといい。
- ・子どもの悩みに相談にのってくれるところ。

○児童センターの対象範囲は？

- ・誰のための施設かを明確にする必要がある。全市対象か、中高生か、乳幼児か。

○中高生にとっての居場所に

- ・中高生のための場所は少ない、特に屋外施設は貴重。
- ・それぞれの中高生が求める居場所。依存しない、宿り木のような存在。
- ・人間力を身に付ける場所。

■部屋のつくりについて

○使い分けができる

- ・下の子から上の子までがつながっている。
- ・同じ部屋を使い分ける。
- ・静かなところとそうでないところを明確にする。
- ・何でもできる部屋や場所を設けておく。

○多様に使える

- ・かちっと作り過ぎない。
- ・多目的な部屋

○ひとりでも、集団でもいられる

- ・集団でも、個人でも、いられるところ。
- ・ひとりでもいられるし、友だちと遊んだりおしゃべりができる環境。
- ・子どもが落ち着いていられる場所。

○きれい過ぎない

- ・きれい過ぎない。
- ・張り替え自由にすれば落書きできる。

○大人の目が届く

- ・作業していても先生の目が届く。

○充実した倉庫

- ・倉庫は重要。
- ・子どもだけで使えるもの、職員でなければ使えないものを分ける。
- ・どこからでも倉庫に入れる。
- ・物品は多くなるのでバックヤードは重要。

■使い方・活動内容について

○体験ができる

- ・いろいろな体験活動ができるといい。たとえば、科学に親しむ、プラネタリウム、野外炊事、生き物にふれるなど。

○開館時間は長く

- ・開館時間は若干、長くしたらよい。一緒に食事をして帰る日を月1回つくるなど。
- ・半年くらいシミュレーションしながら決める。

○世代間交流を創り出すための課題

- ・児童館で、高齢者と共有できるものがあるかを検討する必要がある。
- ・うるさいと思われる、ぶつかる危険性など、高齢者と子どもが交わるには課題がある。
- ・折り紙や工作を教えてもらえたり、高齢者のいるところを通して児童館に入るような感じ。

■運営について

○職員像

- ・しっかりとしかれるスタッフ。
- ・中学生はスタッフ（人）につくが、小学生は場所の魅力に惹かれる。
- ・心地よさが感じられて、笑顔で迎えるホスピタリティ。
- ・心に寄り添うスキルと専門のスキル（音楽、ダンスなど）が求められる。
- ・理屈じゃなくて話を聞いてあげる人。

○さまざまな子どもに対する対応

- ・「未然の福祉」の一助。
- ・荒らす子どもがいると、普通の子は行かなくなる。そのようなことにどのように対応していくのかは課題。
- ・大型の施設は全体を見ることが難しくなる。

■周囲との連携について

○学校と児童館の関係

- ・学校の先生と連携したい。
- ・学校と児童館の連携とは？これまでのところではあまりイメージがない。
- ・時間帯が決まっていて、決まりが多いのが学校。

③川崎市子ども夢パークの概要

～児童館とプレーパークが一体化したような施設～

■所在地：川崎市高津区下作延 1 5 0 0 - 6

■規模：約 10,000㎡

■運営体制：常勤 6 名、非常勤 5 名

■事業費：約 3,600 万円

■施設の開設の背景

1984～1985 教育市民討議（市民・教職員・行政職員）

1986 川崎の教育のあり方への提言の中で「子どもふれあい村」構想

1989 国際連合子ども権利条約を採択

1994 川崎市 子ども議会の開催

1997～2002 「川崎子ども夢共和国事業」

～こどもの、子どもによる、子どものためのまちづくり活動～

2000 子どもの権利条約制定（全国初）

2003 「子ども夢パーク」開設（子どもとおとな、行政の協働による運営準備会）

2005 教育委員会の直営、2006 指定管理者制度により（財）川崎市生涯学習財団と NPO 法人フリースペースたまりばの運営協働事業体による管理運営

※「フリースペースえん」を併設

■施設概要 団体 HP ～はじめに～より

あたりまえのことだけど「子どもたち一人ひとりが大事にされなければならない。」それを実現するために、川崎の子どもと大人と一緒に考え、たくさん話し合いをして「川崎市子どもの権利に関する条例」をつくりました。夢パークは、2003年7月に川崎市がこの条例をもとにつくった施設であり、川崎市が決めた子どもについての約束を実現する場です。夢パークは子どものこんな居場所です

ありのままの自分でいられる場

多様に育ち、学ぶ子どもの居場所

自分の責任で自由に遊ぶ場

つくりつづけていく場

子どもたちが動かしていける場

夢パークは、子どもが安心してありのままの自分でいられる場です。そのためは、ひとりひとりが大事にされなければなりません。そして、夢パークはそのような居場所として存続するように支えている多くの大人たちの姿があります。

夢パークでは子どもが「やりたい」と思ったことにチャレンジできるように、できるだけ禁止事項をつくらなくて「自分の責任で自由に遊ぶ」ことを大事にしています。

夢パークは子どもの「やりたい」気持ちを軸に毎日変わっていきます。子どもも大人も利用しているみんながつくり手になり、つくりつづける施設なのです。

■夢パーク施設 MAP・写真



【講義の中で印象に残ったこと】

- ・神奈川県の不登校は30人に1人、全国では36人に1人
- ・引きこもり（半年以上家の中）は70万人、コンビニ程度なら行ける人155万人
- ・いじめが低年齢化、小学生のいじめ12.3万人、小中高全体で18.8万人
- ・15才～39才の死因の第1位は自殺
- ・貧困家庭と過干渉
- ・子どもは「助けて」を言えない
- ・日本の子どもの特徴：自己肯定感が低い

○子どもの SOS をキャッチする居場所が必要

- ・夢パークの特徴「ケガと弁当は自分持ち」「マニュアルも評価もいらない」「主体を取り戻す」「遊びを通じて参加、参加で場づくり」「安心して失敗できる」「俺にはできないかもしれない、というあきらめる力」「おさがりバザール」「子どもの焼き肉パーティ」
- ・全国にフリースクールは430カ所。平均33000円/月。「えん」は無料（25年前からカレー250円）

④港区立麻布子ども中高生プラザについて

日 時：平成28年9月30日（金）午後4時～午後5時30分

場 所：東京都港区南麻布4-6-7（港区立麻布子ども中高生プラザ）

参加者：6名



- ・ 近隣に私学が多いため、別の地域から来る方も多い（草加市在住の方もいる）
- ・ 地域に小中高校の公立、私学、インターナショナルの学校が多いため、子どもたちも多い。
- ・ ベビーカー置場があり、親御さんからは好評
- ・ 体育館は舞台や防音設備が付いており、音楽の発表会も行っている。
- ・ 港区はローラーブレードが盛んなため、屋上に併設している。
- ・ 音楽室の利用状況は60～70%くらい
- ・ 子どもの年齢に分けて部屋も区分されている。
- ・ 工作室があり、親子で作業できるような広さがあった。
- ・ フリースペースには高校、大学生くらいの人もいた。
- ・ ドアの間隙に指が挟まれないような工夫が多かった。
- ・ 松原児童センターの規模も同じくらいを想定？
- ・ 施設は子どもが中心で使用しているが、日中は大人でも使用できるだけの広さがあると感じた。

⑤杉並区立児童青少年センター（ゆう杉並）について

日 時：平成28年10月7日（金）午前10時～正午

場 所：東京都杉並区荻窪1-56-3 杉並区立児童青少年センター（ゆう杉並）

参加者：13名



1 施設について

基本的に中学生、高校生対象の施設で、芸術や文化、スポーツなどの活動を通して交流できる施設（大学生や社会人などの青年は対象外）。

2 施設の位置づけ

学校に行けない（行きたくない）、部活動をしていない子どもの心のよりどころとして生きる目的や自信が身につくような場であると同時に社会性や人間力などを身につける場であってほしい。

3 中・高校生との関わり

施設を利用する上では、各部屋には防犯カメラが設置されているなど利用制限があり、比較的自由度は低い。また、職員との連携が取りづらいため、関わり方にはある距離感を持って接している。

運営委員会に所属している中・高校生には、他の施設や講演会などに視察に行かせて、施設で必要なことを学ばせている。

4 委託について

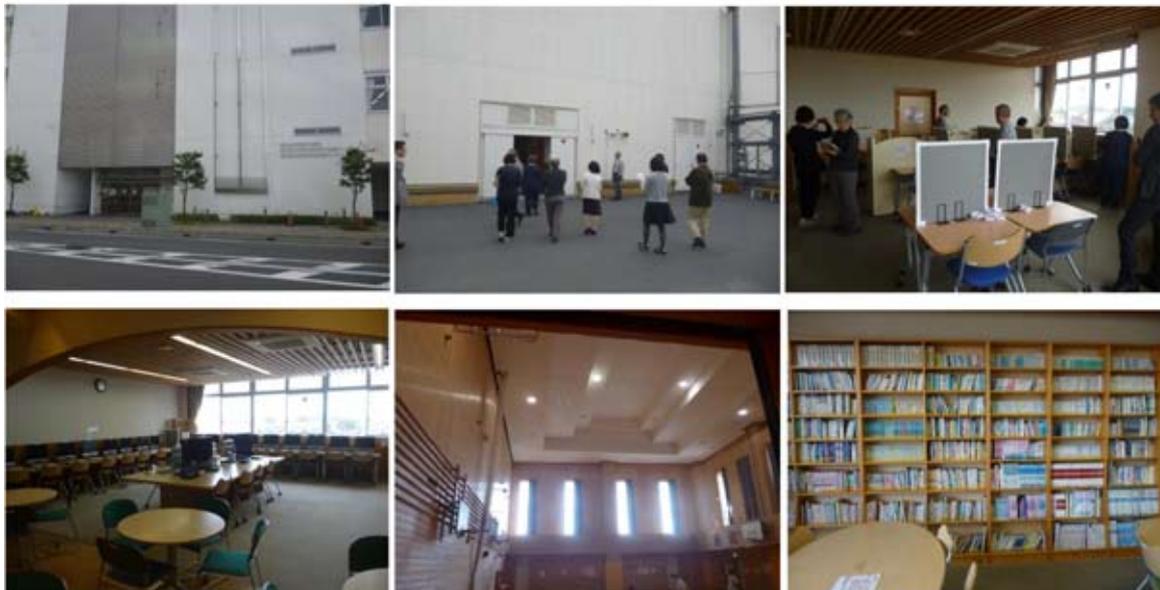
委託先によって違うが行政の意図することとは違う方向に行ってしまうことや意思決定の行程で遅い部分もあり、ゆう杉並では考えていない。

⑥春日部市立春日部第2児童センター（ゲーかすかべ）について

日 時：平成28年10月14日（金）午前10時～正午

場 所：埼玉県春日部市粕壁3丁目8番1号3階

参加者：15名



1. 施設について

中・高校生中心の利用をコンセプトにした児童施設。指定管理（アクティオ株式会社）で運営している。運営には、中・高校生から成る運営委員会（月1回）やシニアのボランティア（登録制）、外部・地元企業との連携を取っている。来館者の保護者からなるサポーターズクラブも存在したが、現在は活動していない。

2. 利用者について

施設利用者は、春日部市内の学校が多いものの、草加市や越谷市の学校の生徒など距離関係なく来館している。来館者数も毎年度、増加傾向（特に中・高校生）にあり、高校生の割合も増加している（平成21年度、14%→平成25年度、37%）。高校生の利用が増えた理由としては、高校への案内状や来館する高校生への口コミ依頼、音楽ライブの開催（投票の導入などで来館者を増やす取組）など実施。また、地域の新聞や各種メディアでの広報活動も実施。

3. 地元企業とのタイアップ

講座や講演会などについて、付加価値を付けるということだけでなく、運営費の削減も図る必要があるため、地元企業などに企画書を提出し協賛として支援をしていただくものを増やしている。

4. 多世代（異世代）交流について

多世代交流としてゲーかす横丁を企画してシニアの方による遊びの交流を図り、約400人ほど児童が参加している。シニアが来館することでも問題点や難しい点などは特になく、むしろシニアの方が子どもから元気がもらえるとしてとても好評である。また、地元のシニアの方の来館も大丈夫だが、孫を連れて遊びに来ている方が中心で、シニアの方に部屋の貸出等を行っていない（部屋を開放すると交流がなくなってしまうため、あくまでボランティアサポーターとしての役割にしよう）。

5. 児童センターとしての役割居場所としての位置づけ

ゲーかすかべは、親や学校以外の第3の学び場として位置づけており、企業とのタイアップを図ったり講座数を増やすとともに、ランドセル来館制度や在館時間延長制度の導入を図り、多くの子どもの場としての機能を充実させているが、学校へ行けない（行きたくない）子どもへのアプローチは不足している部分はある。

⑦（仮称）松原児童センター基本構想市民検討会議出席者一覧

[参加者・団体] 市内在住高校生・大学生

草加松原団地自治会

花栗町会

松原四丁目南町会

草加の児童館を考える会

子ども広場草加おやこ劇場

NPO法人草加ジュニアオーケストラ

公益財団法人児童育成協会

草加市子ども会育成者連絡協議会

UR都市機構

[草加市役所] 総合政策課

資産活用課

みんなでまちづくり課

文化観光課

スポーツ振興課

子育て支援課

都市計画課

子ども育成課(事務局)

草加市子ども未来部子ども育成課

平成29年3月

編集：早稲田大学参加のデザイン研究所